

## 245号の概要

5月27日に「メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会」の第8回幹事会を開催。その資料を本号に掲載しました。また、6月1日に2026年度関東支部定時総会を開催、2025年度の事業報告・決算報告並びに2026年度の事業計画・収支予算の件、役員改選の件等の議案が審議されました。総会後に（一社）日本スーパーマーケット協会専務理事 皆川剛氏による特別講演会を開催。講演資料を掲載しておりますのでご覧ください。また、本部の2026年度第1回理事会を書面決議形式で開催、その内容も本号に掲載しました。

## CONTENTS

### ●本部活動

・第1回 理事会を書面決議方式で開催、國分晃会長（代表理事）の提案書に対し理事・監事全員より同意書が提出された。 [提案書](#)

・5月26日（火）14：00～第8回「メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会」幹事会開催 会場：ビジョンセンター京橋 [幹事会資料](#)

### ●支部活動

・定時総会

関東支部

6月1日（月） 定時総会・特別講演会開催

特別講演会講師：（一社）日本スーパーマーケット協会

専務理事 皆川 剛 氏

[関東支部定時総会](#) [特別講演会資料](#)

・北海道支部 賛助会員・WG共催勉強会

5月27日（水）会場：京王プラザホテル札幌 B1F プラザホール [勉強会](#)

●2026年度 委員会・研究会・専門部会・WG活動 (5月1日～5月31日)

- ・5月11日(月) 第4回 BCP対応WG

会場：日食協及びWEB

- ・5月12日(火) 第1回 EDI-WG

会場：日食協及びWEB

VAN機能検討分科会の進め方について、【メーカー・卸間BMS】ガイドライン「事前出荷情報(ASN)の運用指針」反映について 他

- ・5月21日(木) 第1回 法務研究会

会場：日食協及びWEB

各社の債権管理状況について、「取適法」施行から半年経過しての振り返り 他

- ・5月26日(火) 第1回 メーカー・卸間次世代標準EDI幹事会

会場：VISION CENTER京橋

- ・5月28日(木) 第2回 N-Torus技術専門部会

会場：日食協及びWEB

稼働・使用状況報告、機能改善報告 他

2026年度 定時総会 日程

本部 6月19日

支部 北海道支部 7月8日  
関東支部 6月1日終了  
北陸支部 7月15日  
中四国支部 7月2日

東北支部 7月14日  
東海支部 6月23日  
近畿支部 6月10日終了  
九州・沖縄支部 7月7日

理事・監事 各位

一般社団法人 日本加工食品卸協会  
会長 國分 晃

## 提 案 書

拝啓 春暖の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、一般社団・財団法人法第96条の規定に基づき、理事会の決議事項について下記の通り提案いたします。

つきましては、別紙「同意書」により、来る5月14日(木)までに必着すべく、ご送付下さいますようお願い申し上げます。

※「同意書」の事務局宛ご送付は、FAXまたはPDFデータのEメール送信で結構です。  
原紙をご郵送いただく必要はございません。

敬具

### 記

#### 【会長(代表理事)國分 晃の提案の内容】

- 第1号議案 2025年度事業報告に関する件 ……………(資料 P1)  
「2025年度事業報告」についての承認
- 第2号議案 2025年度収支決算報告に関する件……………(資料 P12)  
「2025年度収支決算報告書」についての承認
- 第3号議案 会員の動向に関する件 ……………(資料 P11)  
「2025年度会員動向(会員推移)」についての承認
- 第4号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件……………(資料 P25)  
「2026年度 役員体制(案)」についての承認
- 第5号議案 2026年度年会費及び賦課徴収に関する件…(資料 P26)  
「2026年度年会費及び賦課徴収法」についての承認
- 第6号議案 定時総会の開催に関する件 ……………(資料 P29)  
「定時総会(案)」についての承認
- 提案を可決する旨の理事会があったものとみなされる日を2026年5月14日とすること。

以上

幹事会資料

# メーカー・卸間次世代標準 E D I 推進協議会

---

～ 第8回幹事会 検討資料 ～

2026年5月26日



一般社団法人 日本加工食品卸協会

# 目次

---

- I. メーカー・卸間検討体制
- II. 進め方と分科会検討テーマ
- III. 分科会の状況
- IV. 第7回幹事会ご意見
- V. Step1 BMSメッセージ作成検討
- VI. 各社様ご意見

# I. メーカー・卸間検討体制

# 1. 協議会の体制

(2026年5月現在)

**【体制】** 2025年3月組成  
 ・全体会 計3回開催  
 ・幹事会 計8回開催

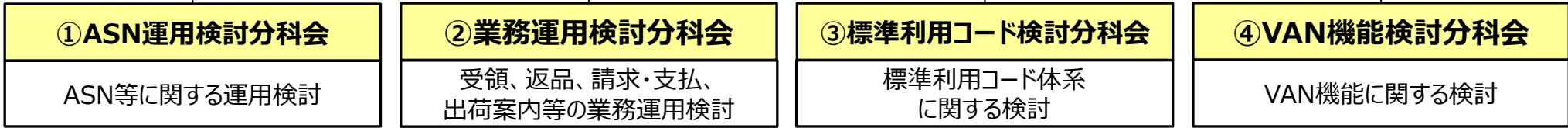
**事務局**  
 一般社団法人  
 日本加工食品卸協会

**メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会**

※略称：次世代EDI協議会



- ・全体会：検討結果を共有する会
- ・幹事会：協議会における議論の会  
BMSメッセージ、ガイドライン策定
- ・分科会：EDIの前提となる業務運用等を検討する会



**全体会（メーカー29社、卸9社、VAN関連事業者4社、オブザーバー2団体）**

(五十音順)

**幹事会**

<p><b>メーカー（11社）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサヒビール(株)</li> <li>・味の素(株)</li> <li>・カルビー(株)</li> <li>・菊正宗酒造(株)</li> <li>・キューピー(株)</li> <li>・キリングroupプロジスティクス(株)</li> <li>・サントリーホールディングス(株)</li> <li>・日清食品ホールディングス(株)</li> <li>・(株)ニッポン</li> <li>・ハウス食品(株)</li> <li>・明治ホールディングス(株)</li> </ul>	<p><b>卸（9社）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤忠食品(株)</li> <li>・加藤産業(株)</li> <li>・国分グループ本社(株)</li> <li>・(株)高山</li> <li>・(株)日本アクセス</li> <li>・日本酒類販売(株)</li> <li>・三井物産流通グループ(株)</li> <li>・三菱食品(株)</li> <li>・(株)山星屋</li> </ul>	<p><b>VAN関連事業者（4社）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)インテック</li> <li>・(株)サイバーリンクス</li> <li>・(株)ファイネット</li> <li>・富士通(株)</li> </ul> <p><b>オブザーバー（2団体）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GS1 Japan</li> <li>・e-お菓子ねっと</li> </ul>	<p><b>メーカー（18社）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大塚食品(株)</li> <li>・カゴメ(株)</li> <li>・(株)加藤美蜂園</li> <li>・カルピス(株)</li> <li>・クラシエ(株)</li> <li>・月桂冠(株)</li> <li>・サッポロビール(株)</li> <li>・田中食品(株)</li> <li>・テーブルマーク(株)</li> <li>・日清オイリオグループ(株)</li> <li>・(株)日清製粉ウエルナ</li> <li>・ネスレ日本(株)</li> <li>・ハナマルキ(株)</li> <li>・ヒガシマル醤油(株)</li> <li>・(株)明治屋</li> <li>・ヤマキ(株)</li> <li>・理研ビタミン(株)</li> <li>・Umios(株)</li> </ul>
---	--	---	---

## Ⅱ. 進め方と分科会検討テーマ

# 1. 進め方

## 1-1. BMSメッセージの作成検討

### Step 1

(本年度継続)

#### 物流（受発注～事前出荷情報（ASN）の高度化）

##### 卸・小売間に比べ遅れている卸・メーカー間の事前出荷（ASN）に関する物流の高度化を図る

以下、既存流通BMSメッセージを参考に各業界VANフォーマットを含めて検討を行う。

- **受発注、受注回答、ASNのBMSメッセージ作成**  
受発注(見直し)、受注回答(新規)、ASN(見直し)
- **VAN機能の検討**  
次世代EDIを実現するうえで、実装すべくVAN機能を検討する。

### Step 2

(本年度一部着手)

#### 受領、返品、請求・支払のデータ化と出荷案内の見直し

- **他業界では実現している受領、返品・返品受領のデータ化を行う**
- **請求・支払のEDI化を推し進め、効率化と高度化を図る**

以下、業務運用を検討し、既存流通BMSメッセージを参考に各業界VANフォーマットを含め検討を行う。

- **受領～請求・支払の業務運用検討**  
受領～請求・支払（出荷案内含む）までの業務運用を検討すると共に、メーカー・卸間での出荷案内運用等に差異があるのを是正する。
- **受領～請求・支払のBMSメッセージ作成**
  - ・ 物流：受領（新規）、返品・返品受領(新規)、出荷案内（見直し）
  - ・ 債権債務：請求（（出荷案内）見直し→新規）、支払（新規）

# 1. 進め方

## Step3

### 残りの既存日食協フォーマットからBMSメッセージへの集約

#### 残りの既存日食協フォーマットからBMSメッセージへの集約を推し進め、効率化と高度化を図る

日食協FMTと各業界VANフォーマットを参考にBMSメッセージを検討する。  
また、運用を検討する。

- 残りの既存フォーマット（在庫、販売実績、販促金、その他）をBMSメッセージに集約し、標準化を図る

### 1-2. 運用指針の確認・検討

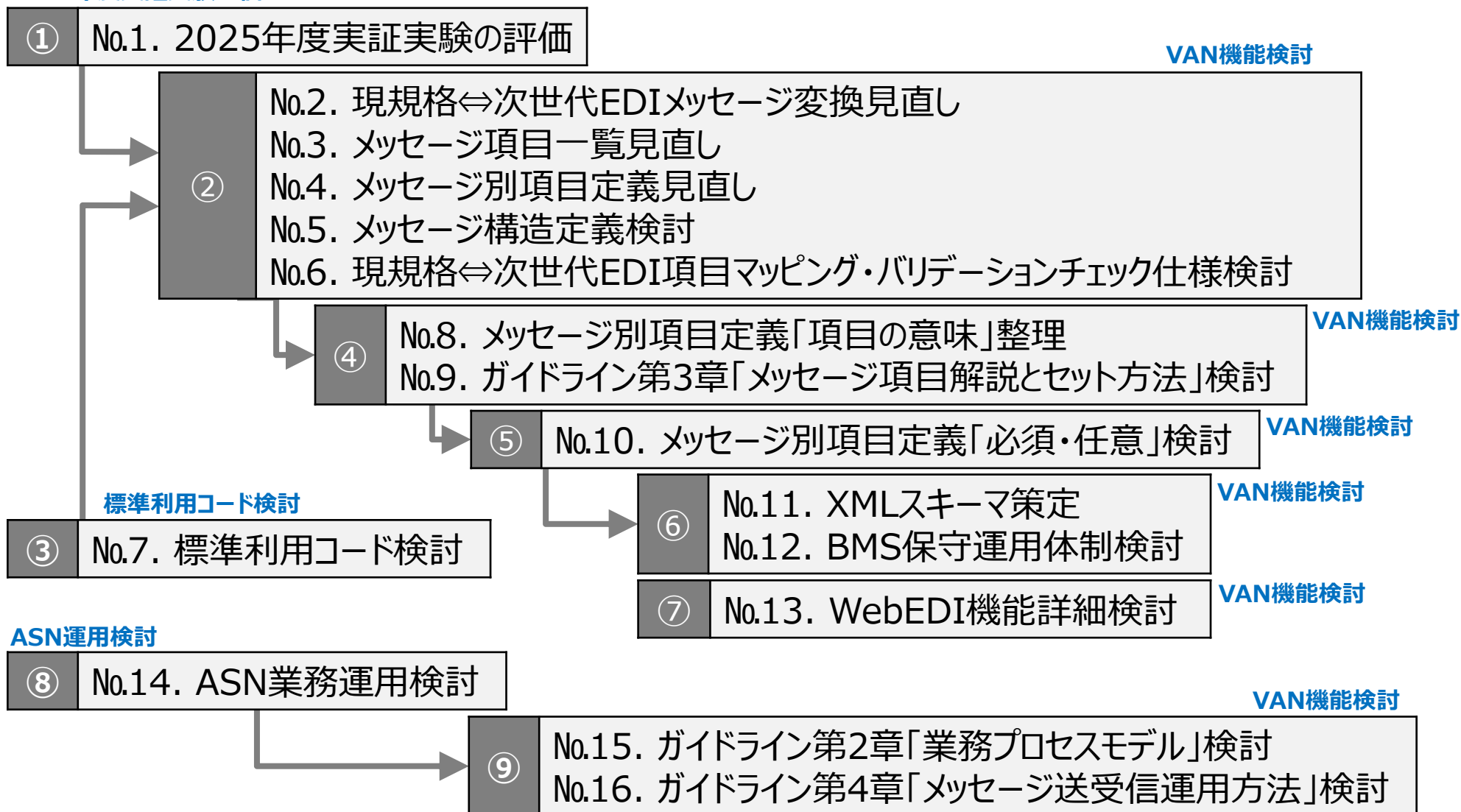
- ① 受発注～ASNに関し、「事前出荷情報（ASN）の運用指針」を作成（4月完了）
- ② 受領（返品等含む）～請求・支払の運用は、別途検討し運用指針として纏める
- ③ 次世代標準EDIのBMSメッセージの内容と運用等は、「ガイドライン」として纏める

#### 【目標】

「2027年度中に関東・関西圏の小売専用センターにASNを実装し、より多くのメーカーにご参画頂けるよう準備する」

## 2. Step1 BMSメッセージ作成検討

### 2025年度実証実験評価



## 2. Step1 BMSメッセージ作成検討

No.	タスク	幹事会		ASN運用 検討分科 会	業務運用 検討分科 会	標準利用 CD検討 分科会	VAN機能 検討分科 会
			実証実験				
<b>Step1 : 発注～受注回答～事前出荷メッセージ作成検討</b>							
1	2025年度実証実験の評価（課題やタスク整理）	○	●				●
2	現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し	○	●				●
3	メッセージ項目一覧見直し	○	●				●
4	メッセージ別項目定義見直し（タイプ、桁数、コードリスト設定等含）	○	●				●
5	メッセージ別構造定義検討	○	●				●
6	現規格⇔次世代EDI項目マッピング仕様・バリデーションチェック検討	○	●				●
7	標準利用コード検討（企業、商品）	○				●	
8	メッセージ項目一覧「項目の意味」整理	○					●
9	ガイドライン第3章「メッセージ項目解説とセット方法」検討	○					●
10	メッセージ別項目定義「必須・任意」検討	○					●
11	XMLスキーマ策定	○					●
12	BMS保守運用体制検討	○					●
13	WebEDI機能詳細検討	○					●
14	ASN業務運用検討	○		●			
15	ガイドライン第2章「業務プロセスモデル」検討	○					●
16	ガイドライン第4章「メッセージ送受信運用方法」検討	○					●

再掲

### 3. スケジュール

検討項目	2026年										2027年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
次世代EDI協議会	幹事会 3/25 ▲	全体会 4/22 ▲	幹事会 5/26 ▲		幹事会 7/29 ▲		幹事会 9/30 ▲		幹事会 11/25 ▲		幹事会 1/27 ▲		幹事会 3/24 ▲
<b>Step1 : 発注～受注回答～事前出荷メッセージ作成検討</b>													
1. 2025年度実証実験評価	→												
2. VAN機能検討	→												
3. 標準利用コード体系		→											
4. ASN運用検討	→	→											
<b>Step2 : 受領～請求・支払の業務運用検討</b>													
5. 業務運用検討		→											

## Ⅲ. 分科会の状況

## 1. 業務運用検討分科会

まずは受領を中心に返品、請求・支払、出荷案内等の業務運用を検討する。  
この結果を受け、システム運用とシステム仕様を具現化する。

### ● 参加企業

- ・ メーカー：アサヒビール、味の素、菊正宗酒造、カルビー、  
キリングroupロジスティクス、キューピー、サントリーホールディングス、  
ハウス食品
- ・ 卸：幹事会参加卸にて調整中

### ● 検討の考え方・進め方

複雑な「債権債務」を一括で解決しようとせず、物流（事実）と商流（金額）を分離して検討・稼働させる。

まずは、現場メリットの大きい「受領データのデジタル化」を先行して実現させる。

※ 具体的検討内容について、日食協にて検討中

### ● 開催予定

第1回 6月16日（火）15:00～17:00 日食協 会議室にて

※物流と商流担当者にお集まり頂き、検討予定。

## 1. 業務運用検討分科会

### 基本方針の再定義

複雑な「債権債務」を一括で解決しようとせず、**物流（事実）」と「商流（金額）」を分離**して並行稼働させる。  
 まずは現場メリットの大きい**「受領データのデジタル化」**を先行して実現する。

### 1 物流軸：受領データのEDI化

単価や金額情報は含めず、何が、いつ、いくつ届いたか」という**数量事実の確定**に特化してデジタル化を推進します。

#### 導入による3つのメリット

- ✓ **ペーパーレス・押印レス化**  
紙運用の廃止により、ドライバー待機時間と事務負荷をゼロに。
- ✓ **保管・検索コストの低減**  
改正電子帳簿保存法に対応。瞬時にデータを検索できる体制を構築。
- ✓ **請求照合の効率化**  
数量差異の原因確認が即座に可能となり、解決スピードが向上。

#### 受領データ送信の2パターン

##### パターンA：ASN連携（標準モデル）

メーカーからのASNに対し、対となる受領データを返信。

##### パターンB：受領単独（補完モデル）

ASN未対応の場合でも、卸側の受領実績のみを先行して送信しデジタル化を底上げ。

### 2 商流軸：請求支払EDIの標準化

受領データとは切り離し、請求・支払明細のデータ形式標準化を進めます。複雑さを回避するため、段階的に範囲を拡大します。

#### 段階的展開プラン

- 1 **第1フェーズ：品代（商品代金）フォーカス**  
最も基礎となる「数量 × 単価」の標準化と運用策定を最優先します。
- 2 **第2フェーズ：諸経費への対応**  
値引き、運賃、販促費等の複雑な項目は、基盤確立後に個別ロジックを整理します。

#### ▲ 今後の検討が必要な重要テーマ

- 直送取引** 自社倉庫外の入庫分をどう決済と結びつけるか
- 返品取引** 「現物移動」 伝票処理」など多様なパターンの標準化

## 2. ASN運用検討分科会

---

日食協より提示した「事前出荷情報（ASN）の運用指針」に対し、幹事会にて挙がったASN業務運用等に関する意見に対し、各社物流担当者等を中心に課題検討を行い、運用指針を確定し、4/22全体会にて承認。

4/28日食協HPにて、「事前出荷情報（ASN）の運用指針（初版）」公開。

### ● 参加企業

- ・ メーカー：アサヒビール、味の素、カルビー、キューピー、キリングroupロジスティクス、サントリーホールディングス、ニッポン、ハウス食品
- ・ 卸：旭食品、伊藤忠食品、国分グループ本社、トークン、日本アクセス、日本酒類販売、三井物産流通グループ、三菱食品、ヤマエ久野

### ● 今後

6/16第1回業務運用検討分科会の検討内容受け、物流（事実）の受領・返品  
の運用を検討頂く予定。

※開催日未定

### 3. 標準利用コード検討分科会

製・配・販連携協議会の商流・物流におけるコード体系標準化WGや経産省の商品情報連携会議等の内容を踏まえ、取引先・商品コード等の標準利用コード体系に関し検討する。この結果を受け、システム運用とシステム仕様に反映する。

#### ● 参加企業

- ・ メーカー：アサヒビール、キューピー、カルビー、キリングroupプロジスティクス、ハウス食品
- ・ 卸：日食協 幹事会参加卸、N-Sikle運営委員会より
- ・ オブザーバー：流通経済研究所

#### ● 第1回分科会を4/13に開催（以下内容の情報共有）

- ① 経産省商品情報連携会議検討体制
- ② 経産省商品情報連携会議 -全体スケジュール-
- ③ 経産省商品情報連携会議検討事項
- ④ 経産省商品情報連携会議 -今後の検討体制-
- ⑤ 製配販連携協議会 商流・物流におけるコード体系標準化WG 方向性
- ⑥ ファイネット酒類・加工食品業界標準化推進会議
- ⑦ 商品マスタ体系標準化 方向性
- ⑧ 事業所マスタ体系標準化 方向性
- ⑨ 加工食品卸における業界統一コードアンケート結果（2023年）
- ⑩ 今後の実現に向けた進め方

#### ● 次回開催予定：8月（具体的日程未確定）

商品情報連携会議から本年度に新たに設けられる「消費財サプライチェーン協議会」にて検討される「商品、事業所、貨物等の標準コードの普及」「商品情報の一括登録・共同利用」「商流・物流の標準EDIの普及」「商慣習の合理化・適正化」の検討結果を受け開催する。

## 4. VAN機能検討分科会

VAN機能について、VAN関連事業者等と検討する。

### ● 参加企業

- メーカー : 菊正宗酒造、キューピー、キリングroupプロジスティクス、明治ホールディングス
- 卸 : 伊藤忠食品、加藤産業、国分group本社、日本アクセス、日本酒類販売、三井物産流通group、三菱食品
- VAN関連事業者 : インテック、サイバーリンクス、ファイネット、富士通  
※ e-お菓子ねっと（確認中）

### ● 検討内容

P7～8「Step1 BMSメッセージ作成検討」参照。

### ● 開催予定（月1回）

日付	時間	日付	時間
6月30日（火）	15:00～17:00	10月27日（火）	15:00～17:00
7月24日（金）	15:00～17:00	11月20日（金）	15:00～17:00
8月25日（火）	15:00～17:00	12月23日（水）	15:00～17:00
9月24日（木）	15:00～17:00		

※場所：日食協 会議室

## IV. 第7回幹事会ご意見

## 1. 幹事会ご意見（振り返り）

協議会体制、分科会活動、実証実験結果、来年度活動について、情報共有を行った。

- 協議会体制、分科会に対し、異議なし。
- 実証実験結果、課題が残った。
- 運用課題に関し、今後の各分科会にて検討する。
- 事前出荷情報（ASN）運用指針について合意。

No	ご意見
1	受注回答・受領等のタイミングや範囲等をどう運用していくかが重要。
2	実証実験は、手作業となり大変であった。また、実証実験対応に終始し、運用を想定したロジックの検討にいたらず、未確認な点を残し課題が残る。
3	物流事業者等にたいし、どのようなメリットがあるかを具体的に説明しないと進まないという危機感がある。来年度はこの辺りについても検討して頂きたい。
4	項目カットについては、検討が必要。
5	ASNレベル3に車両情報が必須とあるが、必須・任意について検討頂きたい。
6	提案事項の欠品等の取り扱いについて、検討が必要。
7	ASN運用指針の納品精度、瑕疵対応について、現状と即わない部分がある。
8	VAN事業者として、今後いろいろと対応していかなければならない。

# V. Step1 BMSメッセージ作成検討

# 1. システム検討テーマ

No.	タスク	幹事会 STS	#7 3/25	#8 5/26	#9 7/29	#10 9/30	#11 11/25	#12 1/27	#13 3/24
<b>Step1 : 発注～受注回答～事前出荷メッセージ作成検討</b>									
1	2025年度実証実験の評価（課題やタスク整理）	対応済	→						
2	現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し	検討中	→	→					
3	メッセージ項目一覧見直し	検討中	→						
4	メッセージ別項目定義見直し	検討中	→						
5	メッセージ別構造定義検討	未実施			→				
6	現規格⇔次世代EDI項目マッピング仕様・バリデーションチェック検討	-							
	1. 現規格⇔次世代EDIにおける対比項目の再整理	検討中	→						
	2. N : 1対比時のマッピング（優先ルール）	未実施		→					
	3. XMLデータ型 = Code（コードリスト）におけるマッピングルール	検討中	→						
	4. 桁数が異なるケースのマッピングルール（XMLデータ型ごとの検討）	未実施		→					
	5. 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール	未実施		→					
	6. 同一XMLデータ型においてタイプが異なる場合のマッピングルール	未実施		→					
	7. 全角文字マッピング時のバイト数（3byte⇔2byte）ルール	未実施			→				
	8. SBDH該当項目データ設定ルール	未実施			→				
	9. 次世代EDIバリデーションチェック仕様整理	未実施			→				
8	メッセージ項目一覧「項目の意味」整理	未実施		→					
9	ガイドライン第3章「メッセージ項目解説とセット方法」検討	検討中	→	→					
10	メッセージ別項目定義「必須・任意」検討	未実施			→				
11	XMLスキーマ策定	未実施				→			
12	BMS保守運用体制検討	未実施				→			
13	WebEDI機能詳細検討	未実施					→		
15	ガイドライン第2章「業務プロセスモデル」検討	検討中	→						
16	ガイドライン第4章「メッセージ送受信運用方法」検討	検討中	→	→					

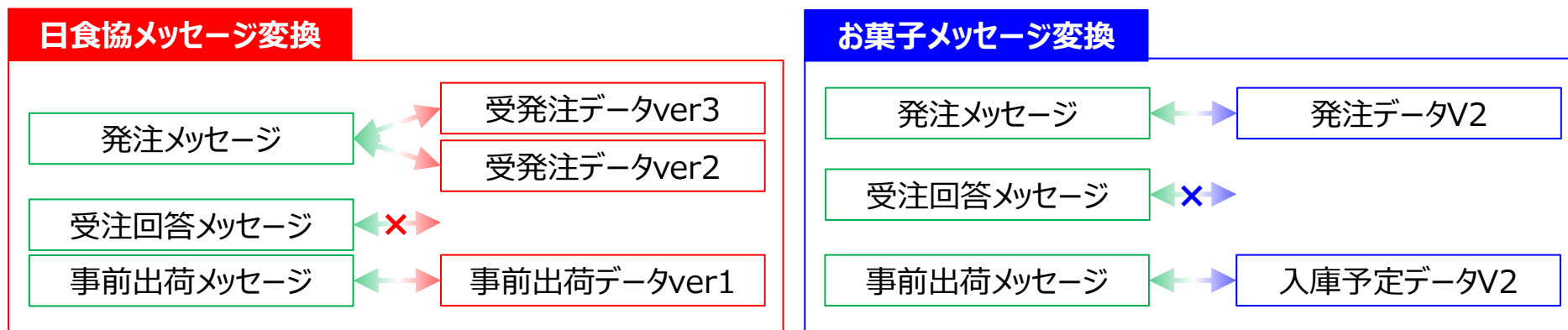
幹事会検討  
分科会検討  
5/26テーマ

## 2. 幹事会テーマ

### 2 現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し

レコード構造定義や項目マッピングの検討を進めていく上で、事前出荷メッセージの検討で課題がある。  
e-お菓子ねっと⇔次世代EDIのメッセージ変換について再考が必要。

#### ◆現状整理 1 : 現在想定しているメッセージ変換仕様



#### ◆現状整理 2 : 次世代EDIメッセージレコード構造定義方針

No.	メッセージ	レコード構造定義方針と課題
1	発注メッセージ	発注伝票単位でデータを作成するため、 発注伝票をキーとしたレコード構造によるデータ連携を想定
2	受注回答メッセージ	受注伝票単位でデータを作成するため、 受注伝票をキーとしたレコード構造によるデータ連携を想定
3	事前出荷メッセージ	出荷梱包単位でデータを作成するため、 受注伝票をキーとしたレコード構造にはならない想定

## 2. 幹事会テーマ

### 2 現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し

#### ◆現状整理 3 : 現規格におけるレコード構造



#### ◆現状整理 4 : 次世代EDI・事前出荷メッセージ項目

- 1) 明細行数、伝票合計金額、二次店伝票合計金額  
 ※e-お菓子ねっと・入庫予定データV2マッピング項目（日食協FMTでは項目定義無し）
- 2) 配送便No.、納入パレット総枚数、パレット管理No.区分、パレット管理No.、パレット種別区分、共配区分、総商品アイテム数  
 ※日食協FMT・事前出荷情報データver1マッピング項目（e-お菓子ねっとでは項目定義無し）

## 2. 幹事会テーマ

### 2 現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し

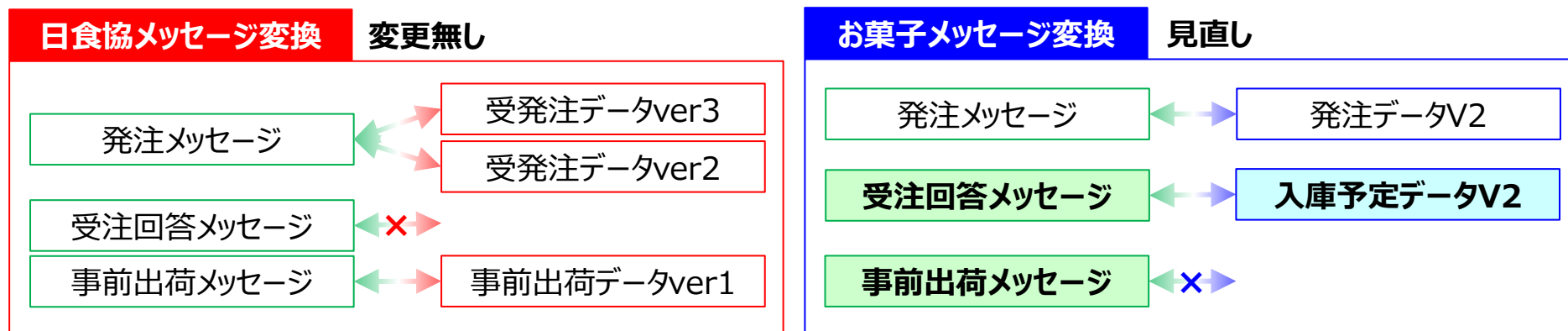
#### 課題)

現在想定している「次世代EDI・事前出荷メッセージ⇔e-お菓子ねっと・入庫予定データ」の変換仕様では、e-お菓子ねっと・入庫予定データのマッピング項目でセットができない、若しくは伝票合計用項目のためセットしてもあまり意味をもたない項目がある。

#### 提案)

現規格⇔次世代EDIメッセージ変換について、現規格及び次世代EDIのレコード構造及びe-お菓子ねっとにて出荷梱包情報ヘッダー情報となる項目の定義が無いことから、以下の通りe-お菓子ねっと⇔次世代EDIにおけるメッセージ変換の見直しを提案。

※出荷梱包情報ヘッダー情報：配送便No.やパレット管理No.等



## 2. 幹事会テーマ

### 3 メッセージ項目一覧見直し

第7回幹事会の提案事項と確認事項の検討結果を以下資料に反映。

[20260526\\_【次世代EDI】メッセージ項目一覧.xlsx](#)

#### 1 項目追加 (第7回幹事会：提案事項No.3、提案事項No.6、確認事項No.2)

分類	項目名	タイプ	XMLデータ型	桁数	コードリスト	コードリスト	発注	受注回答	事前出荷
番号	明細行No.	数字	Identifier	MAX2			新規	引継	引継
数量	欠品単位数	数字	Quantity	7			-	新規	-
数量	欠品総バラ数量	数字 (小数点以下2桁有り)	Quantity	9			-	新規	-
各種区分	再発注区分	数字	Code	2	○	00：無指定、01：再発注	新規	-	-
各種区分	次回納品可能日未定区分	数字	Code	2	○	00：無指定、01：未定	-	新規	-

#### 2 項目削除 (第7回幹事会：提案事項No.7)

発注区分、手形区分、定期発注取消区分、現物添付区分、菓子取引区分、菓子伝票区分、ロット不足運賃負担区分、伝票枚数

#### 3 コードリスト修正 (第7回幹事会：提案事項No.4)

欠品区分 00：欠品無し、01：品切れ、02：終売、03：未発売、04：コード訂正、99：欠品その他

EOS発注区分 01：オンライン、02：オフライン

#### 4 変更無し (第7回幹事会：確認事項No.1)

ボール入数

# 2. 幹事会テーマ

## 4 メッセージ別項目定義見直し

第7回幹事会の提案事項の検討結果を以下資料に反映。

[20260526\\_【次世代EDI】メッセージ項目一覧.xlsx](#)

### 1 受注回答メッセージ削除 (第7回幹事会：提案事項No.1、提案事項No.2、提案事項No.3)

卸最新在庫日付区分、卸最新在庫日付、入庫許容日付区分、入庫許容日付、  
専用伝票番号、専用伝票行番号、専用伝票日付、定特区分、温度帯区分、

配送便No.、共配区分、パレット管理No.、パレット管理No.区分、パレット種別区分、総商品アイテム数、  
納入パレット総枚数、メーカー伝票番号、メーカー製造ロット番号、メーカー物流業者伝票番号

### 2 事前出荷メッセージ削除 (第7回幹事会：提案事項No.1、提案事項No.2、提案事項No.3)

卸最新在庫日付区分、卸最新在庫日付、入庫許容日付区分、入庫許容日付、  
専用伝票番号、専用伝票行番号、専用伝票日付、定特区分、温度帯区分、

欠品区分、次回納品可能日

## 2. 幹事会テーマ

### 6-1 現規格⇔次世代EDIにおける対比項目の再整理

現規格⇔次世代EDIにおける項目マッピングの再整理を実施し、以下資料に反映。

#### 20260526\_【次世代EDI】メッセージ項目一覧.xlsx

分類	項目名	タイプ	XMLデータ型	桁数	項目の意味	コードリスト	コードリスト	日食協・受発注データ ver.3	日食協・受発注データ ver.2	日食協・事前出荷情報データ ver.1	e-お菓子ねっと・発注データ V2	e-お菓子ねっと・在庫予定データ V2
日付関連	データ作成日付	数字	Date	8	提供企業がデータをファイルに入力した日付 (YYYYMMDD) をセットする。			1.ファイルヘッダーレコード_4.データ作成日付 1.ファイルヘッダーレコード_7.データ処理日	1.ファイルヘッダーレコード_4.データ作成日付 1.ファイルヘッダーレコード_7.データ処理日	1.ファイルヘッダーレコード_4.データ作成日付 1.ファイルヘッダーレコード_7.データ処理日	1.コントロールレコード_5.データ作成日	1.コントロールレコード_5.データ作成日
日付関連	データ作成時刻	数字	Time	6	提供企業がデータをファイルに入力した時刻 (HHMMSS) をセットする。			1.ファイルヘッダーレコード_5.データ作成時刻	1.ファイルヘッダーレコード_5.データ作成時刻	1.ファイルヘッダーレコード_5.データ作成時刻	1.コントロールレコード_6.データ作成時刻	1.コントロールレコード_6.データ作成時刻
日付関連	発注日	数字	Date	8	発注者が実際に発注入力を行った日 (YYYYMMDD) をセットする。			2.伝票ヘッダーレコード_5.発注日	2.伝票ヘッダーレコード_5.発注日	-	2.ヘッダー/明細レコード_12.発注日	-
日付関連	納品希望日	数字	Date	8	発注者が指定した発注伝票の納品希望日 (YYYYMMDD) をセットする。			2.伝票ヘッダーレコード_11.納入日又は引取日	2.伝票ヘッダーレコード_11.納入日又は引取日	4.商品明細レコード_6.納入日または引取日	2.ヘッダー/明細レコード_9.納品日/引取日	2.ヘッダー/明細レコード_10.納品日
日付関連	納品予定日	数字	Date	8	受注者が商品の納品を行う予定日 (YYYYMMDD) をセットする。			-	-	2./ロット情報レコード_8.納品予定日	-	2.ヘッダー/明細レコード_12.出荷日
日付関連	次回納品可能日	数字	Date	8	受注者が欠品・分納等で受注明細を予定通りの数量を納品できない場合に、当該商品における次回納品可能日 (YYYYMMDD) をセットする。			-	-	-	-	-
日付関連	メーカー出荷日	数字	Date	8	受注者製倉庫の商品出荷日 (YYYYMMDD) をセットする。			-	-	-	-	2.ヘッダー/明細レコード_11.出荷日
日付関連	実入荷日	数字	Date	8	伝票上の納品日と実際の商品の納品日異なる場合や納品が夜間時間帯となり発注者と受注者で納品日の認識に齟齬が出る可能性がありそうな場合に使用する。			-	-	-	-	-
日付関連	受領日	数字	Date	8	発注者側の仕入計上日、返品の場合は返品計上日をセットする。当該日付にて債権・債務が発生する。			-	-	-	-	-
日付関連	納品希望時間 (自)	数字	Time	6	発注者が指定する納入開始時間 (HHMM) をセットする。			2.伝票ヘッダーレコード_15.納入希望時間	2.伝票ヘッダーレコード_15.納入希望時間	-	2.ヘッダー/明細レコード_10.納入時間 (自)	-
日付関連	納品希望時間 (至)	数字	Time	6	発注者が指定する納入終了時間 (HHMM) をセットする。			-	-	-	2.ヘッダー/明細レコード_11.納入時間 (至)	-
日付関連	納品予定時間	数字	Time	6	受注者が納入予定時間 (HHMM) をセットする。			-	-	-	-	2.ヘッダー/明細レコード_13.納入予定時間
日付関連	受領時間	数字	Time	6	発注者が実際に商品を受領した時間若しくはシステム処理された時間 (HHMM) をセットする。			-	-	-	-	-
各種区分	発注者最新在庫日付区分	数字	Code	2	発注者最新在庫日付の区分をセットする。	0	01: 製造日	-	-	-	2.ヘッダー/明細レコード_83.卸最新在庫日付区分	2.ヘッダー/明細レコード_91.卸最新在庫日付区分

### 現規格からのマッピング定義

※参考	次世代EDI	現規格データ種	現規格有り	現規格無し	合計
発注 メッセージ		日食協・受発注V3	70	60	130
		日食協・受発注V2	76	54	
		お菓子・発注V2	85	45	
事前出荷 メッセージ		日食協・事前出荷V1	47	88	135
		お菓子・在庫予定V2	80	55	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-2 N : 1対比時のマッピング（優先ルール）

現規格⇔次世代EDI間の項目マッピングにて、1 : 1とならない項目のマッピングの方針案を以下に記載。

#### 1 現規格統合→次世代EDIパターン

①	次世代	送信元コード	⇔	日食協	データ送信元センターコード + データ送信元センターコード（予備）
②	次世代	最終送信先コード	⇔	日食協	最終送信先コード + 最終送信先ステーションアドレス
③	次世代	直接送信先コード	⇔	日食協	直接送信宛先企業コード + 直接送信宛先企業コードステーションアドレス

※日食協項目は、何れも「1.ファイルヘッダーレコード」に定義されている項目

#### 2 次世代：現規格=1 : N パターン

①	次世代	データ作成日付	⇔	日食協	優先 → 1.ファイルヘッダーレコード_4.データ作成日付 1.ファイルヘッダーレコード_7.データ処理日
②	次世代	伝票行番号	⇔	日食協	優先 → 4.明細行レコード_3.発注(1)伝票行No. 5.明細行オプションレコード_3.発注(1)伝票行No.
③	次世代	送信元コード	⇔	お菓子	優先 → 1.コントロールレコード_3.送信元コード 2.ヘッダー／明細レコード_3.送信元コード 3.トレーレコード_3.送信元コード
④	次世代	最終送信先コード	⇔	お菓子	優先 → 1.コントロールレコード_2.送信先コード 2.ヘッダー／明細レコード_2.送信先コード 3.トレーレコード_2.送信先コード

※「優先」の記載は、現規格→次世代EDI項目マッピング時に優先的に使用する項目（基本的には同じ値が入っている前提）

※②：次世代EDI発注メッセージ⇔日食協受発注データver2における項目マッピングルールで、1レコード3明細構造のため、(2)(3)も同様

## 2. 幹事会テーマ

### 6-2 N : 1対比時のマッピング（優先ルール）

#### 3 Text名称項目パターン

前提となる仕様の整理	対象項目	日食協	社名、店名、取引先名、住所、商品名
		お菓子	一次店名、二次店名、三次店名、届け先名、チェーン店名、住所、下請法_伝票表示内容、摘要、商品名、摘要
日本語区分		日食協	△：カナ表現、1：漢字表現
		お菓子	△/0：英数カナ、1：漢字（S-JIS/JIS/JEF/IBM）
定義項目数		日食協	各項目1箇所のみ定義されている
		お菓子	各項目2箇所定義（例.商品名、商品名カナ）されており、主項目の日本語区分=1の場合はカナ項目が必須となる
定義仕様	次世代	XMLデータ型=Text、タイプ=文字の場合は、「文字」と「文字（半角カナ）」が定義されている タイプ=文字の項目については、全角文字と半角文字の混在セットが可能（全角文字だけではない）	

方針案) 商品名を例にマッピング案を記載

	マッピング	条件	元規格	元項目	→	先規格	先項目	マッピングメモ
①	日食協 → 次世代	日本語区分=1（漢字表現）	日食協	商品名	→	次世代	商品名	次世代.商品名カナは空白となる
		日本語区分=△（カナ表現）	日食協	商品名	→	次世代	商品名カナ	次世代.商品名は空白となる
②	次世代 → 日食協	次世代.商品名カナ≠△（空白）	次世代	商品名カナ	→	日食協	商品名	日本語区分=△とする
		次世代.商品名カナ=△（空白）	次世代	商品名	→	日食協	商品名	日本語区分=1とする
③	お菓子 → 次世代	日本語区分=1（漢字）	お菓子	商品名	→	次世代	商品名	
			お菓子	商品名カナ	→	次世代	商品名カナ	
		日本語区分=△/0（英数カナ）	お菓子	商品名	→	次世代	商品名カナ	次世代.商品名は空白となる
④	次世代 → お菓子	（条件無し）	次世代	商品名	→	お菓子	商品名	日本語区分=1とする
			次世代	商品名カナ	→	お菓子	商品名カナ	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

コードリスト以外の値が入ってきた場合も想定して、コードリストマッピング方針案を記載。

#### 1 卸最新在庫日付区分

お菓子			次世代	
△	未使用	→	99	無指定/その他
1	製造日		01	製造日
2	賞味期限		02	賞味期限
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
01	製造日	→	1	製造日
02	賞味期限		2	賞味期限
99	無指定/その他		△	未使用
以外	※定義なし		×	エラー

#### 2 入庫許容日付区分 & 3 商品鮮度日付区分

日食協			次世代	
△	使用しない	→	99	無指定/その他
1	製造年月日		01	製造日
2	賞味期限		02	賞味期限
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	製造日	→	1	製造年月日
02	賞味期限		2	賞味期限
99	無指定/その他		△	使用しない
以外	※定義なし		×	エラー

お菓子			次世代	
△	未使用	→	99	無指定/その他
1	製造日		01	製造日
2	賞味期限		02	賞味期限
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
01	製造日	→	1	製造日
02	賞味期限		2	賞味期限
99	無指定/その他		△	未使用
以外	※定義なし		×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 4 商品コード使用区分 ※第3回幹事会共有内容にコードリスト値以外のコードがセットされた場合の案を追加

日食協			次世代	
0	メーカーPVコード		00	メーカーPVコード
1	卸PVコード		01	卸PVコード
2	JAN+荷姿コード		02	JAN+荷姿コード
3	JANコード		03	JANコード
4	集合包装用商品コード	→	04	集合包装用商品コード
5	SDPコード		05	SDPコード
6	GTIN		06	GTIN
以外	※定義なし		00	メーカーPVコード

次世代			日食協	
00	メーカーPVコード		0	メーカーPVコード
01	卸PVコード		1	卸PVコード
02	JAN+荷姿コード		2	JAN+荷姿コード
03	JANコード		3	JANコード
04	集合包装用商品コード	→	4	集合包装用商品コード
05	SDPコード		5	SDPコード
06	GTIN		6	GTIN
07	菓子統一商品コード		1	卸PVコード
以外	※定義なし		×	エラー

お菓子			次世代	
0	統一商品コード		07	菓子統一商品コード
1	ITFコード (14桁)		04	集合包装用商品コード
3	JANコード (13桁)		03	JANコード
4	JANコード (8桁)	→	03	JANコード
6	GTIN		06	GTIN
以外	※定義なし		07	菓子統一商品コード

次世代			お菓子	
00	メーカーPVコード		0	統一商品コード
01	卸PVコード		0	統一商品コード
02	JAN+荷姿コード		0	統一商品コード
03	JANコード		3	JANコード (13桁)
04	集合包装用商品コード	→	4	JANコード (8桁)
05	SDPコード		1	ITFコード (14桁)
06	GTIN		0	統一商品コード
07	菓子統一商品コード		6	GTIN
以外	※定義なし		0	統一商品コード
			×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 5 発注単位区分

日食協			次世代	
1	ケース	→	01	ケース
2	ボール		02	ボール
3	バラ		03	バラ
5	キログラム		05	キログラム
7	グラム		07	グラム
8	ミリリットル		08	ミリリットル
9	リットル		09	リットル
以外	※定義なし		01	ケース

お菓子			次世代	
1	ケース発注	→	01	ケース
2	ボール発注		02	ボール
3	バラ発注		03	バラ
以外	※定義なし		01	ケース

次世代			日食協	
01	ケース	→	1	ケース
02	ボール		2	ボール
03	バラ		3	バラ
05	キログラム		5	キログラム
07	グラム		7	グラム
08	ミリリットル		8	ミリリットル
09	リットル		9	リットル
以外	※定義なし		×	エラー

次世代			お菓子	
01	ケース	→	1	ケース発注
02	ボール		2	ボール発注
03	バラ		3	バラ発注
05	キログラム		×	エラー
07	グラム		×	エラー
08	ミリリットル		×	エラー
09	リットル		×	エラー
以外	※定義なし		×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 6 共配区分

日食協			次世代	
1	単独メーカー	➔	01	単独メーカー
2	複数メーカー		02	複数メーカー
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	単独メーカー	➔	1	単独メーカー
02	複数メーカー		2	複数メーカー
99	無指定/その他		1	単独メーカー
以外	※定義なし		×	エラー

#### 7 パレット管理No.区分

日食協			次世代	
1	GRAI	➔	01	GRAI
2	SSCC		02	SSCC
9	プライベートコード		09	プライベートコード
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	GRAI	➔	1	GRAI
02	SSCC		2	SSCC
09	プライベートコード		9	プライベートコード
99	無指定/その他		9	プライベートコード
以外	※定義なし		×	エラー

#### 8 パレット種別区分

日食協			次世代	
1	8型	➔	01	8型
2	9型		02	9型
3	11型		03	11型
4	13型		04	13型
9	その他		99	無指定/その他
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	8型	➔	1	8型
02	9型		2	9型
03	11型		3	11型
04	13型		4	13型
99	無指定/その他		9	その他
以外	※定義なし		×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 9 消費税区分

日食協			次世代	
△	外税	➔	00	外税
1	内税		01	内税
2	非課税		02	非課税
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
00	外税	➔	△	外税
01	内税		1	内税
02	非課税		2	非課税
99	無指定/その他		△	外税
以外	※定義なし		×	エラー

お菓子			次世代	
1	外税	➔	00	外税
2	内税		01	内税
3	非課税		02	非課税
△	個別判断		99	無指定/その他
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	外税	➔	1	外税
01	内税		2	内税
02	非課税		3	非課税
99	無指定/その他		△	個別判断
以外	※定義なし		×	エラー

#### 10 下請法 伝票表示区分

お菓子			次世代	
△	表示なし	➔	00	表示なし
1	表示あり		01	表示あり
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	表示なし	➔	△	表示なし
01	表示あり		1	表示あり
99	無指定/その他		△	表示なし
以外	※定義なし		×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 11 倉直区分 ※e-お菓子ねっとにおける「店」は「倉」を意味している

日食協			次世代	
1	倉入	➔	01	倉入
2	直送		02	直送
3	倉引取		03	倉引取
4	直送引取		04	直送引取
以外	※定義なし		99	無指定/その他

お菓子			次世代	
1	店入	➔	01	倉入
2	直送		02	直送
3	店引取		03	倉引取
4	直送引取		04	直送引取
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	倉入	➔	1	倉入
02	直送		2	直送
03	倉引取		3	倉引取
04	直送引取		4	直送引取
99	無指定/その他		1	倉入
以外	※定義なし	×	エラー	

次世代			お菓子	
01	倉入	➔	1	店入
02	直送		2	直送
03	倉引取		3	店引取
04	直送引取		4	直送引取
99	無指定/その他		1	店入
以外	※定義なし	×	エラー	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 12 定特区分

日食協			次世代	
△	分類不能	→	99	無指定/その他
1	定番納品		01	定番
2	特売納品		02	特売
以外	※定義なし		99	無指定/その他

お菓子			次世代	
0	定番	→	01	定番
1	特売		02	特売
△	分類不能		99	無指定/その他
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			日食協	
01	定番	→	1	定番納品
02	特売		2	特売納品
99	無指定/その他		△	分類不能
以外	※定義なし		×	エラー

次世代			お菓子	
01	定番	→	0	定番
02	特売		1	特売
99	無指定/その他		△	分類不能
以外	※定義なし		×	エラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 13 EOS発注区分

日食協			次世代	
1	オンライン	➔	01	オンライン
2	オフライン		02	オフライン
以外	※定義なし		01	オンライン

次世代			日食協	
01	オンライン	➔	1	オンライン
02	オフライン		2	オフライン
以外	※定義なし		×	エラー

#### 14 温度帯区分 ※日食協・事前出荷情報データに温度帯区分があるが、次世代EDI・事前出荷メッセージ項目から削除されたためマッピング無し

お菓子			次世代	
△	常温	➔	00	常温
0	常温		00	常温
1	28℃以下		01	常温 (28℃以下)
2	20℃以下		02	常温 (20℃以下)
3	冷蔵 (10℃以下)		03	冷蔵 (10℃以下)
4	冷凍 (-15℃以下)		04	冷凍 (-15℃以下)
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	常温	➔	0	常温
01	常温 (28℃以下)		1	28℃以下
02	常温 (20℃以下)		2	20℃以下
03	冷蔵 (10℃以下)		3	冷蔵 (10℃以下)
04	冷凍 (-15℃以下)		4	冷凍 (-15℃以下)
99	無指定/その他		0	常温
以外	※定義なし		×	エラー

#### 15 納入単価表示区分

お菓子			次世代	
△	表示	➔	00	表示
1	非表示		01	非表示
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	表示	➔	△	表示
01	非表示		1	非表示
99	無指定/その他		△	表示
以外	※定義なし	×	エラー	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-3 XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

#### 16 欠品区分

お菓子			次世代	
00	正常	→	00	欠品無し
01	品切れ		01	品切れ
02	終売		02	終売
03	未発売		03	未発売
04	コード訂正		04	コード訂正
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	欠品無し	→	00	正常
01	品切れ		01	品切れ
02	終売		02	終売
03	未発売		03	未発売
04	コード訂正		04	コード訂正
99	無指定/その他		00	正常
以外	※定義なし	×	エラー	

#### 17 金額計算区分

お菓子			次世代	
△	切捨て	→	00	切捨て
1	切上げ		01	切上げ
2	四捨五入		02	四捨五入
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
00	切捨て	→	△	切捨て
01	切上げ		1	切上げ
02	四捨五入		2	四捨五入
99	無指定/その他		△	切捨て
以外	※定義なし	×	エラー	

#### 18 製品容器区分

お菓子			次世代	
0	製品	→	01	製品
1	容器		02	容器
以外	※定義なし		99	無指定/その他

次世代			お菓子	
01	製品	→	0	製品
02	容器		1	容器
99	無指定/その他		0	製品
以外	※定義なし	×	エラー	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-4 桁数が異なるケースのマッピングルール（XMLデータ型ごとの検討）

現規格⇔次世代で桁数が異なる場合は、XMLデータ型毎のマッピング方針案を記載。

No.	XMLデータ型	主な項目（次世代EDI定義）	マッピング方針案
1	Text	各種名称、各種名称カナ、住所、住所カナ、 連絡先（TEL）、連絡先（FAX） 下請法_伝票表示内容、下請法_伝票表示内容カナ、 ヘッダー自由使用欄、ヘッダー自由使用欄カナ、 明細自由使用欄、明細自由使用欄カナ	左詰めでマッピングを行う 桁不足時は後ろ（右側）が桁落ち
2	Identifier	伝票番号、伝票行番号、メーカー製造ロット番号、送信元コード、 最終送信先コード、直接送信先コード、提供企業コード、 提供企業事業所コード、次店コード、荷主コード、メーカーコード、 メーカー倉庫コード、商品コード、商品分類コード、ロケーション、 発注便No.、配送便No.、パレット管理No.	左詰めでマッピングを行う 桁不足時は後ろ（右側）が桁落ち
3	Quantity	ケース入数、ボール入数、発注単位、発注単位数量、 発注総バラ数量、出荷単位数量、出荷総バラ数量、 欠品単位数量、欠品出荷総バラ数量、入荷単位ケース数、 明細行数、総商品アイテム数、納入パレット総枚数	小数点以下及び一の位からマッピングを行う 桁数不足時は大きい位が桁落ち
4	Amount	原単価、原価金額、二次店納単価、二次店納価金額、 伝票合計金額、二次店伝票合計金額	小数点以下及び一の位からマッピングを行う 桁数不足時は大きい位が桁落ち
5	Date	データ作成日付、発注日、納品希望日、納品予定日、 次回納品可能日、メーカー出荷日、実入荷日、受領日、 卸最新在庫日付、在庫許容日付、商品鮮度日付（製造日）、 商品鮮度日付（賞味期限）、下請法_支払期限、専用伝票日付	6桁（yyymmdd）→8桁（yyyymmdd） マッピング時は上2桁「20」付与
6	Time	データ作成時刻、納品希望時間（自）、納品希望時間（至）、 納品予定時間、受領時間	4桁（hhmm）→6桁（hhmmss） マッピング時は下2桁「00」付与

## 2. 幹事会テーマ

### 6-5 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール

次世代EDIのXMLデータ型「Date」「Time」は、存在する西暦年月日と時分秒のみが有効となる。存在しない西暦年月日や時分秒については現規格の仕様書に記載されている内容のみを許可することとして、以下の通り項目マッピング方針案を記載。

#### 1 次世代EDIメッセージ「Date」

次世代					日食協		お菓子	
存在する西暦年月日					○		○	
システム 定義上 必須	存在しない西暦年月日	①	空白	→	×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		②	00000000		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		③	99999999		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		④	上記以外		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
システム 定義上 任意	存在しない西暦年月日	⑤	空白（タグ無し）		○	空白	○	00000000
		⑥	00000000		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		⑦	99999999		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		⑧	上記以外		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー

#### 2 次世代EDIメッセージ「Time」

次世代					日食協		お菓子	
存在する時分秒（000000含む）					○		○	
システム 定義上 必須	存在しない時分秒	①	空白	→	×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		②	999999		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		③	上記以外		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
システム 定義上 任意	存在しない時分秒	④	空白（タグ無し）		○	空白	○	000000
		⑤	999999		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー
		⑥	上記以外		×	バリデーションエラー	×	バリデーションエラー

## 2. 幹事会テーマ

### 6-5 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール

#### 3 日食協フォーマットデータ「Date」

◎ 日食協フォーマット基準書に定義されている存在しない西暦年月日がセットされる項目とケースは以下となる。

	日食協項目	条件	属性	セット仕様説明	可能セット値	次世代項目	必須/任意 (案)
A	納入日又は引取日	◎	X	スペースの場合には、事前に確認してある納品サイクルに従う。	空白	納品希望日	必須
B	入庫許容日付	○	X	日付管理しない商品については、99999999をセットする。	99999999	入庫許容日付	任意

◎ 上記、「必須/任意」と仮定した場合の、マッピングルール案を以下に記載。

日食協				次世代			
存在する西暦年月日				○			
システム 定義上 必須	存在しない西暦年月日	①	空白	×	バリデーションエラー	上記Aが該当するが、次世代EDIではNGとする。	
		②	00000000	×	バリデーションエラー		
		③	99999999	×	バリデーションエラー		
		④	上記以外	×	バリデーションエラー		
システム 定義上 任意	存在しない西暦年月日	⑤	空白	→	○	(タグを作成しない)	
		⑥	00000000		△	(タグを作成しない)	
		⑦	99999999		△	(タグを作成しない)	上記Bが該当するが、次世代EDIにマッピングする際は、入庫許容日付区分=99（無指定/その他）とし、入庫許容日付のタグは作成しない。
		⑧	上記以外		△	(タグを作成しない)	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-5 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール

#### 4 日食協フォーマットデータ「Time」

◎ 日食協フォーマット基準書に定義されている存在しない時分秒がセットされる項目とケースは以下となる。

	日食協項目	条件	属性	セット仕様説明	可能セット値	次世代項目	必須/任意 (案)
C	納入希望時間	△	X	時間帯を区分してコード表示する。	hhmm以外の値 (コードリスト等)	納品希望時間 (自)	任意

◎ 上記、「必須/任意」と仮定した場合の、マッピングルール案を以下に記載。なお日食協FMTで時刻必須項目は無し。

日食協					次世代		
存在する時分秒					○		
システム 定義上 任意	存在しない時分秒	①	空白	→	○	(タグを作成しない)	
		②	999999		△	(タグを作成しない)	
		③	上記以外		△	(タグを作成しない)	上記Cが該当するが、次世代EDIではNGとし、タグを作成しないこととする。

## 2. 幹事会テーマ

### 6-5 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール

#### 5 e-お菓子ねっとフォーマットデータ「Date」

- ◎ e-お菓子ねっとデータ・ガイドラインに定義されている存在しない西暦年月日がセットされる想定としては、【属性=9】&【必須≠◎】項目に、「00000000」がセットされるケースがある。  
対象項目は、発注日、専用伝票日付、下請法\_支払期限、卸最新在庫日付、入荷許容日付、実在庫製品日付。

お菓子				次世代		
存在する西暦年月日				○		
システム 定義上 必須	存在しない西暦年月日	①	空白	×	バリデーションエラー	
		②	00000000	×	バリデーションエラー	
		③	99999999	×	バリデーションエラー	
		④	上記以外	×	バリデーションエラー	
システム 定義上 任意	存在しない西暦年月日	⑤	空白	○	(タグを作成しない)	
		⑥	00000000	△	(タグを作成しない)	上記Cが該当する。
		⑦	99999999	△	(タグを作成しない)	
		⑧	上記以外	△	(タグを作成しない)	

#### 6 e-お菓子ねっとフォーマットデータ「Time」

- ◎ e-お菓子ねっとデータ・ガイドラインに定義されている存在しない時分秒がセットされる想定はない。  
また現e-お菓子ねっとフォーマットで時刻関連の必須項目は無し。

お菓子				次世代		
存在する時分秒				○		
システム 定義上 任意	存在しない時分秒	①	空白	○	(タグを作成しない)	
		②	999999	△	(タグを作成しない)	
		③	上記以外	△	(タグを作成しない)	

## 2. 幹事会テーマ

### 6-6 同一XMLデータ型においてタイプが異なる場合のマッピングルール

#### 1 Text タイプ「文字」vs「文字（半角カナ）」

※6-2-3.Text名称項目パターン 検討事項と同じ内容となるため割愛。

#### 2 Identifier タイプ「英数」vs「数字」

◎XMLデータ型=Identifier として定義されている項目の内、  
「次世代EDI・タイプ」 vs 「日食協・属性」 vs 「e-お菓子ねっと・属性」が異なる項目は以下となる。  
各項目におけるマッピング方針案を記載する。

No.	次世代・項目名	次世代・タイプ	日食協・属性	お菓子・属性
①	伝票番号	英数	X	9
②	伝票行番号	数字	X	9
③	メーカー伝票番号	英数	X	9
④	送信元コード	英数	X	9
⑤	最終送信先コード	英数	X	9
⑥	直接送信先コード	英数	X	9

NGパターン	方針案
次世代→お菓子	数字項目のみをセット
日食協→次世代	01固定セット
次世代→お菓子	空白とする
次世代→お菓子	※SBDH該当項目データ設定ルールにて検討
次世代→お菓子	※SBDH該当項目データ設定ルールにて検討
次世代→お菓子	※SBDH該当項目データ設定ルールにて検討

## 2. 幹事会テーマ

### 8 メッセージ項目一覧「項目の意味」整理

日食協及びe-お菓子ねっとにおける説明内容を参考に「項目の意味」定義案を以下資料に記載。

**20260526\_【次世代EDI】メッセージ項目一覧.xlsx**

メッセージ項目番号	分類	項目名	タイプ	XMLデータ型	桁数	項目の意味	コードリスト	コードリスト
※項目決定後 検討	日付関連	データ作成日付	数字	Date	8	提供企業がデータをファイルに入力した日付（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	データ作成時刻	数字	Time	6	提供企業がデータをファイルに入力した時刻（HHMMSS）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	発注日	数字	Date	8	発注者が実際に発注入力を行った日（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	納品希望日	数字	Date	8	発注者が指定した発注伝票の納品希望日（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	納品予定日	数字	Date	8	受注者が商品の納品を行う予定日（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	次回納品可能日	数字	Date	8	受注者が欠品・分納等で受注明細を予定通りの数量を納品できない場合に、当該商品における次回納品可能日（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	メーカー出荷日	数字	Date	8	受注者側倉庫の商品出荷日（YYYYMMDD）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	実入荷日	数字	Date	8	伝票上の納品日と実際の商品の納品日が異なる場合や納品が夜間時間帯となり発注者と受注者で納品日の認識に齟齬が出る可能性がありそうな場合に使用する。		
※項目決定後 検討	日付関連	受領日	数字	Date	8	発注者側の仕入計上日、返品の場合は返品計上日をセットする。当該日付にて債権・債務が発生する。		
※項目決定後 検討	日付関連	納品希望時間（自）	数字	Time	6	発注者が指定する納入開始時間（HHMM）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	納品希望時間（至）	数字	Time	6	発注者が指定する納入終了時間（HHMM）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	納品予定時間	数字	Time	6	受注者が納入予定時間（HHMM）をセットする。		
※項目決定後 検討	日付関連	受領時間	数字	Time	6	発注者が実際に商品を受領した時間若しくはシステム処理された時間（HHMM）をセットする。		
※項目決定後 検討	各種区分	発注者最新在庫日付区分	数字	Code	2	発注者最新在庫日付の区分をセットする。	○	01：製造日 02：賞味期限 99：無指定／その他
※項目決定後 検討	日付関連	発注者最新在庫日付	数字	Date	8	発注者が保持している当該商品における最新在庫の賞味期限若しくは製造日（YYYYMMDD、賞味年月表示は月末最終日）をセットする。日付区分と合わせて使用する。		
※項目決定後 検討	各種区分	入庫許容日付区分	数字	Code	2	入庫許容日付の区分をセットする。	○	01：製造日 02：賞味期限

# 2. 幹事会テーマ

検討事項

### 15 ガイドライン第2章「業務プロセスモデル」検討

ガイドライン第2章「業務プロセスモデル」記載案を以下資料にて作成。

[20260526\\_【メーカー・卸間BMS】ガイドライン.pptx](#)

※ガイドライン第1章「検討背景と全体方針」の中に記載されていた企業名の修正も同時に実施。

## VI. 各社様ご意見

# 1. 本日の説明ポイント

---

本日検討した内容についてのご意見を頂きたいをお願いします。

下記について、6/12(金)までに事務局まで各社様のご意見をご提出下さい。

◎回答例

V-2-5 : 異議なし

V-2-6-2 : 質問 = ××××× 等々

## II. 進め方と分科会検討テーマ

### V. Step1 BMSメッセージ作成検討

#### 2. 幹事会テーマ

2. 現規格⇔次世代EDIメッセージ変換見直し

6-2. N : 1対比時のマッピング (優先ルール)

6-3. XMLデータ型 = Code (コードリスト) におけるマッピングルール

6-4. 桁数が異なるケースのマッピングルール (XMLデータ型ごとの検討)

6-5. 現規格がXMLデータ型に合致しない場合のマッピングルール

6-6. 同一XMLデータ型においてタイプが異なる場合のマッピングルール

8. メッセージ項目一覧「項目の意味」整理

15. ガイドライン第2章「業務プロセスモデル」検討



 **一般社団法人 日本加工食品卸協会**

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-3-4 江戸ビル4階

電話 03-3241-6568

FAX 03-3241-1469

URL <http://nsk.c.ooco.jp/>



## 【関東支部】

関東支部の2026年度幹事会、並びに定時総会が6月1日（月）、LEVEL21 東京會館（東京都千代田区）にて開催された。

当日は11時半より幹事会、昼食後13時より定時総会の順で開催された。

また、定時総会終了後に特別講演会が行われ、本年は一般社団法人 日本スーパーマーケット協会 専務理事の皆川剛様に「サプライチェーン全体最適による流通生産性」と題してご講演いただいた。

### 【2026年度関東支部定時総会 要旨】

日 時	2026年6月1日（月）13:00PM
場 所	LEVEL21 東京會館（アーバンネット大手町ビル）
次 第	第1号報告 2025年度本部事業報告の件
	第1号議案 2025年度事業報告の件
	第2号議案 2025年度決算報告に関する件
	第3号議案 2026年度事業計画に関する件
	第4号議案 2026年度収支予算に関する件
	第5号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件
	第6号議案 その他

第5号議案「任期満了に伴う役員改選に関する件」では次ページ掲載の事務局案が原案通り承認された。



定時総会 会場の模様



講演する皆川剛専務理事

第5号議案

2026年度 関東支部 役員体制 (案)

2026年6月1日

一般社団法人 日本加工食品卸協会  
関東支部 (敬称: 略)

役員	社名	役職	氏名	備考
支部長	(株) 日本アクセス	代表取締役社長 社長執行役員CEO	服部 真也	重任
副支部長	国分首都圏 (株)	代表取締役社長 執行役員	南 博貴	重任
副支部長	(株) サンヨー堂	東京支店 支店長	秋山 亘	重任
副支部長	国分グループ <sup>®</sup> 本社 (株)	取締役専務執行役員	鈴木 嘉一	重任
副支部長	三菱食品(株)	執行役員 首都圏支社長	伊藤 貴史	重任
副支部長	三井物産流通グループ <sup>®</sup> (株)	コンシューマープロダクトユニット 首都圏支社 支社長	山口 剛久	新任
会計監事	伊藤忠食品 (株)	第3営業本部 営業第六部 部長	永島 宏和	重任
幹事	日本酒類販売 (株)	代表取締役社長	倉本 隆	重任
幹事	コンタツ (株)	物流統括部 部長	長澤 憲明	重任
幹事	(株) マルイチ産商	取締役専務執行役員	山田 真史	重任
幹事	国分関信越 (株)	代表取締役社長	前原 康宏	重任
幹事	ヤマキ (株)	取締役会長	山口 茂	重任
幹事	(株) 升喜	上席執行役員	野口 智之	重任
幹事	常洋水産 (株)	水戸支店 取締役営業部長	鈴木 和幸	重任
幹事	群馬県卸酒販 (株)	代表取締役社長	瀬尾 公男	重任
幹事	(株) ヤグチ	執行役員 情報システム部 部長	竹端 祥一	重任
幹事	ユアサ・フナショク (株)	常務取締役 食品本部長	林 伸二	重任
幹事	国見商事 (株)	取締役営業部長	国見 優太	新任
常任幹事	(一社) 日本加工食品卸協会	専務理事	時岡 肯平	重任

---

# サプライチェーン全体最適による 流通生産性改革

---

日食協関東支部 定時総会


2026年6月1日

日本スーパーマーケット協会 専務理事

皆川 剛

みながわ たけし

# 皆川 剛

 日本スーパーマーケット協会

専務理事



## 経 歴

1995年 ライフコーポレーション入社

- 販売促進
- ネットスーパー事業
- 営業企画
- 広報 / サステナビリティ推進

2025年 日本スーパーマーケット協会 理事  
2026年 現職

---

**1** SM物流研究会の取組み

---

**2** 商品情報連携に関する議論と今後の進め方

---

---

# SM物流研究会の取り組み

---

2026年6月1日(月)  
SM物流研究会

## ■ SM物流研究会 概要

名称	SM物流研究会
設立	2023年10月18日
座長	株式会社ライフコーポレーション 執行役員 首都圏PC・物流本部 本部長 渋谷 剛
参加企業数	24社
参加企業 合計売上高	約6.5兆円
会議場所	一般社団法人日本スーパーマーケット協会 会議室
会議回数	3カ月に1回実施 (8月、12月、関西SM物流研究会、首都圏SM物流研究会の開催月を除く)

## ■ SM物流研究会 目的・活動方針

目的	<p>「2024年問題」をはじめとする物流危機を回避し、 地域の生活を支える社会インフラとしての責務を継続して果たすため、 物流分野を各企業間の「競争領域」ではなく「協力領域」と捉えて、 各社の協力による物流効率化策を研究・検討する</p>
活動方針	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 「持続可能な食品物流」を構築するため、物流分野を各小売企業間の「競争領域」ではなく「協力領域」と捉えて、各社の協力による物流効率化策を研究・検討する</li><li>2. コンプライアンスを重視し、SM物流研究会(団体)として商品原価、取引条件に関する提案、交渉は行わない</li><li>3. 製・配・販(メーカー様、卸様、小売)でサプライチェーン全体の効率化を考え、協力する体制を構築する</li></ol>

## ■ SM物流研究会 現体制

### 首都圏SM物流研究会

- ①目的  
首都圏エリアの物流効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会に参加している  
首都圏・北陸の企業
- ③座長  
サミット株式会社  
武田 哲志
- ④開催頻度  
1カ月に1回の開催

### SM物流研究会

- ①目的  
サプライチェーン全体の効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会の参加企業全社
- ③座長  
株式会社ライフコーポレーション  
渋谷 剛
- ④開催頻度  
3カ月に1回の開催

### 関西SM物流研究会

- ①目的  
関西エリアの物流効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会に参加している  
関西の企業が参加
- ③座長  
株式会社平和堂  
財田 晃
- ④開催頻度  
1カ月に1回の開催

#### 主な活動内容

#### 4つの分科会活動を推進

- ・パレット納品の拡大
- ・共同配送 空きトラックの有効活用
- ・チルド物流における物流課題解決
- ・生鮮物流における物流課題解決

サプライチェーン全体(製・配・販)に  
関する物流課題を協議

#### 関西エリアの物流課題を研究

- ・物流の効率化(センター見学)
- ・共同配送 空きトラックの検討
- ・荷待ち・荷役作業等時間の短縮
- ・新規参加企業の勧誘


各研究会の活動共有

## ■ SM物流研究会の新規参加条件

項目	新規参加条件
「持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言」4項目 ※2023年3月に宣言	<b>①加工食品における定番商品の発注時間の見直し</b> ・12時までに卸が発注データを受信できる状態(TCの場合、店舗納品日の前日12時までに卸が発注データを受信できる状態)。最終目標は、店舗納品1日前の12時までに卸が受信できる状態
	<b>②特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保</b> ・特売・新商品の発注を6営業日前(8日前)までに行い、リードタイムを確保する
	<b>③納品期限の緩和(1/2ルールの採用)</b> ・賞味期間180日以上加工食品は、「1/2ルール」を採用する採用率100%
	<b>④流通BMSによる業務効率化</b> ・卸売業と小売業間の受発注方式における標準化EDI「流通BMS」を導入・活用
その他の条件	<b>⑤「バース予約システムの導入」※ドライDCを対象</b>
	<b>⑥「パレット納品の推奨」</b>
	<b>⑦「トップコミットメント」</b>

※上記、7つの取り組みを求めています。①～⑥は実施予定があることを最低限の条件としていますが、**⑦「トップコミットメント」は必須**となります。

## ■ 「4社物流協議会」から現在に至るまで

- 
- 2022年 4月
- フードサプライチェーン・サステナビリティプロジェクト(FSP)開始
    - ・ 製・配・販の各団体が参画、持続可能な加工食品物流構築に向けて課題や実態を情報共有、**サプライチェーン全体の最適化**に向けた取り組みを検討
- 8月
- **4社物流協議会 開始**
    - ・ 日本スーパーマーケット協会の首都圏で営業している正副会長企業4社が協議
- 2023年 3月
- **「持続可能な食品物流に向けた取り組みに関する宣言」**
    - ・ 「首都圏SM物流研究会」発足(サミット、マルエツ、ヤオコー、ライフコーポレーション)
- 10月
- **「SM物流研究会」発足(10社体制)**
    - ・ 首都圏以外の参加企業もあり、研究会の活動規模を拡大「SM物流研究会」、「首都圏SM物流研究会」の二部制に変更
- 2024年 4月
- **4つの分科会を発足して、物流課題に取り組む(15社体制)**
    - ・ 「パレット納品の拡大」、「共同配送、空きトラックの有効活用」  
「生鮮物流における物流課題の解決」、「チルド物流における物流課題の解決」
- 12月
- **「関西SM物流研究会」発足(オークワ、平和堂、万代、ライフコーポレーション)**
- 2025年 10月
- **「SM物流研究会」 24社体制**

## ■ 首都圏SM物流研究会・関西SM物流研究会の発足



### 「首都圏SM物流研究会」発足

持続可能な食品物流に向けた取り組みに関する発表

2023年3月16日に記者発表会を開催

(報道関係 約50社)



### 「関西SM物流研究会」発足

発足目的、当面の議題などを発表

2024年12月20日に記者発表会を開催

(報道関係 約50社) ※オンライン含む

## ■ 参加企業(24社)

・2023年 5月 (株)西友と(株)カスミがメンバーに加わり、6社に




・2023年 10月 (株)いなげや、(株)原信、(株)ナルス、(株)東急ストアがメンバーに加わり、10社に




・2024年 3月 (株)平和堂、(株)エコス、(株)たいらや、(株)マスダ、(株)与野フードセンターがメンバーに加わり、15社に




## ■ 参加企業(24社)


・2024年 5月 (株)イトーヨーカ堂がメンバーに加わり、16社に 


・2024年 9月 (株)ベイシアがメンバーに加わり、17社に 


・2024年 10月 (株)万代、(株)オークワがメンバーに加わり、19社に



・2025年 3月 (株)マルアイがメンバーに加わり、20社に 

・2025年 4月 (株)京成ストアがメンバーに加わり、21社に 

・2025年 9月 (株)ウオロク、(株)とりせんがメンバーに加わり、23社に 

・2025年 10月 (株)さとうがメンバーに加わり、24社に 

## ■ 参加企業(24社)



## ■ 持続可能な食品物流に向けた取り組みの経緯

### ◆ 物流分野の現状

- トラックドライバーの不足（厳しい労働環境と全産業平均を下回る収入状況）
- 需要の増加（EC市場の拡大、消費者ニーズ多様化による多品種・小ロット輸送増加）
- 更なる供給制限のおそれ（2024年度から働き方改革関連法施行）

⇒ 食品物流における従来型の発注から納品までの工程維持が困難になりつつある



### ◆ 行政における取り組み

- 「物流施策大綱」
- 「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン（加工食品、飲料・酒物流編）」

### ◆ フードサプライチェーン・サステナビリティプロジェクト(以下、「FSP」)

- 製・配・販の各団体が参画し、2022年4月発足
- 持続可能な加工食品物流構築に向けて課題や実態を情報共有
- サプライチェーン全体の最適化に向けた取り組みを検討
- 検討課題
  - ① 定番商品における発注時間の見直し
  - ② 特売品・新商品におけるリードタイムの確保および計画発注化
  - ③ 納品期限の緩和(2分の1ルール)

## ■ 全体最適で効率の改善を目指す方法(具体的な取り組み)

全体最適のために、小売で必要な取り組みを製・配・販で協議

以下の4つの項目について、取り組むことが必要

➤ 商品を確定数で運んで中間在庫を減らすために…

1.加工食品における定番商品の発注時間の見直し

2.特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

➤ 減った在庫で食品ロスをさらに減らすために…

3.納品期限の緩和 1/2ルールの採用

➤ 上記をさらに効率化するために…

4.流通BMSによる業務効率化

## ■ 持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言

2023年3月「首都圏SM物流研究会」は『持続可能な食品物流』に向けて、4つの取り組みを行うことを宣言しました

### 「持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言」

#### 1. 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

加工食品における定番商品の店舗発注時間を前倒し

→お取引先様の夜間作業の削減および調整作業時間確保の実現

#### 2. 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

特売品・新商品の計画発注化を進める

確定した発注データをもとに商品や車両の手配ができる環境を整備

→緊急手配等の作業負担軽減、積載効率および実車率の向上

#### 3. 納品期限の緩和(1/2ルールの採用)

180日以上のお賞味期間の加工食品における「1/2ルール」採用

→商品管理業務の負担軽減による食品物流効率化への貢献

#### 4. 流通BMSによる業務効率化

卸売業と小売業間の受発注方式における標準化された流通BMSの導入

→高速通信による作業時間確保、伝票レス・検品レスによる業務効率化

## ■ 各社の取り組み状況（各社参加当初の状況）

▲…サミット、マルエツ、ライフ、ヤオコーは「首都圏SM物流研究会」発足時、  
その他の企業は、新規参加時に条件を達成していなかった項目。

社名	加工食品における定番商品の 発注時間見直し	特売品・新商品 発注・納品 リードタイム確保	納品期限 1/2ルール採用	流通BMS 導入	予約受付システム 導入・活用	バラ積み納品の 削減推進	トップ 合意
サミット	○	▲	▲	○	○	○	○
マルエツ	○	○	▲	○	○	○	○
ライフ	○	▲	○	○	○	○	○
ヤオコー	○	▲	○	○	○	○	○
カスミ	○	○	▲	○	▲	○	○
西友	○	○	▲	○	○	○	○
いなげや	▲	○	▲	○	○	○	○
東急ストア	○	○	▲	○	○	○	○
原信・ナルス	○	▲	○	○	○	○	○
平和堂	○	▲	○	○	○	○	○
エコスグループ (参加4社合同)	▲	▲	▲	○	○	○	○
イトーヨーカ堂	○	▲	○	○	○	○	○
ベイシア	○	○	▲	○	○	○	○
万代	○	○	▲	○	○	○	○
オークワ	▲	○	○	○	○	○	○
マルアイ	○	▲	▲	○	○	○	○
京成ストア	▲	▲	▲	○	— ※TCのみ運営	○	○
ウオロク	▲	▲	○	▲	○	○	○
とりせん	▲	○	○	○	○	○	○
さとう	○	▲	▲	▲	○	○	○

## ■ 各社の取り組み状況（現在）

社名	加工食品における定番商品の 発注時間見直し	特売品・新商品 発注・納品 リードタイム確保	納品期限 1/2ルール採用	流通BMS 導入	予約受付システム 導入・活用	バラ積み納品の 削減推進	トップ 合意
サミット	○	○	○	○	○	○	○
マルエツ	○	○	○	○	○	○	○
ライフ	○	○	○	○	○	○	○
ヤオコー	○	○	○	○	○	○	○
カスミ	○	○	○	○	○	○	○
西友	○	○	○	○	○	○	○
いなげや	○	○	○	○	○	○	○
東急ストア	○	○	○	○	○	○	○
原信・ナルス	○	○	○	○	○	○	○
平和堂	○	○	○	○	○	○	○
エコスグループ	○	○	○	○	○	○	○
イトーヨーカ堂	○	○	○	○	○	○	○
ベイシア	○	○	○	○	○	○	○
万代	○	○	○	○	○	○	○
オークワ	2026年8月下旬に変更予定	○	○	○	○	○	○
マルアイ	○	○	○	○	○	○	○
京成ストア	変更に向けて調整中	変更に向けて調整中	変更に向けて調整中	○	— ※TCのみ運営	○	○
ウオロク	○	○	○	変更に向けて 調整中	○	○	○
とりせん	変更に向けて調整中	○	○	○	○	○	○
さとう	○	○	○	変更に向けて 調整中	○	○	○

## ■ 2025年度の取り組み方針

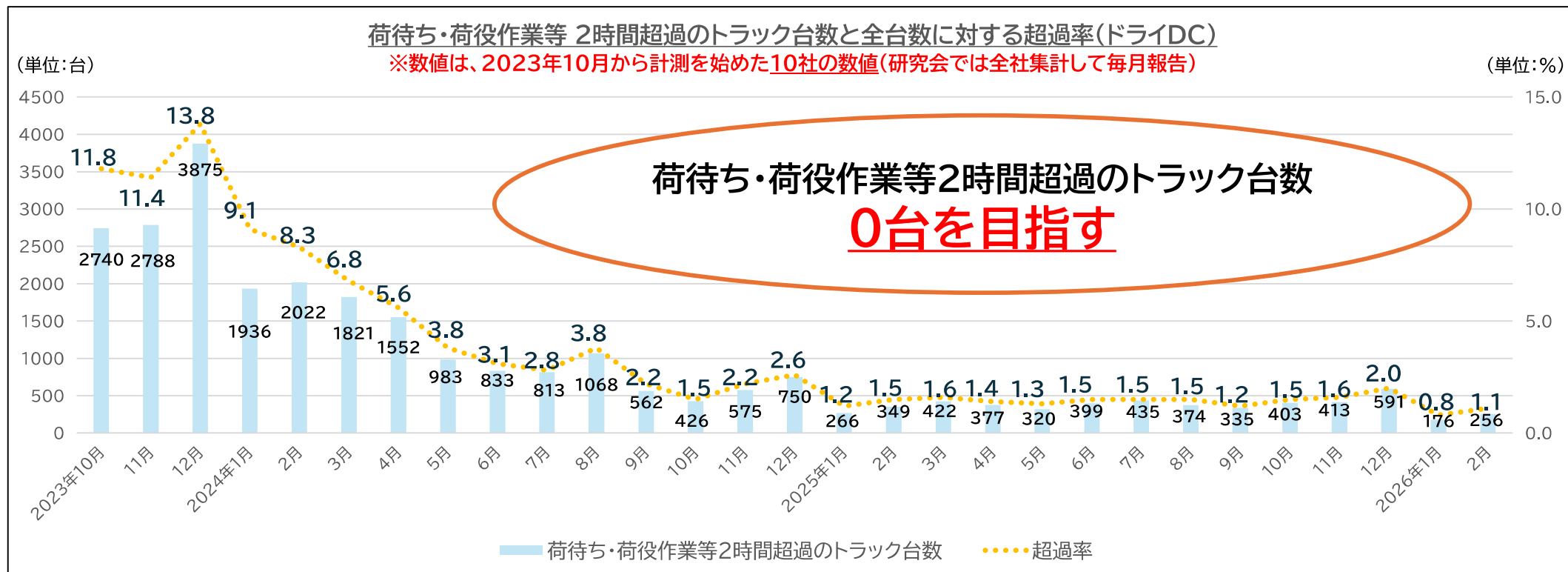
1. 荷待ち・荷役作業等時間の短縮ならびに  
「改正物流効率化法」の施行に合わせた対応

2. 4つの分科会の取り組みを継続して推進

※「パレット納品の拡大」、「共同配送」、「生鮮物流」、「チルド物流」

3. 関西エリアでの物流課題を研究し、課題解決に取り組む

## ■ ドライDC 荷待ち・荷役作業等時間の計測状況



※2026年2月 全社集計 荷待ち・荷役作業等 2時間超過のトラック台数 746台(全台数に対する超過率1.7%)

(一部企業はドライDCのみの運営のため、上記のドライDCの計測不可)

**荷役時間の短縮(「バラ積み」⇒「パレット積み」など)に向けて取り組む**

⇒製・配・販で意見交換を行い、全体最適を目指す

## ■ 首都圏SM物流研究会 分科会の発足

スピード感をもって取り組みを進めるため、取り組み項目別にグループ分けして検討を進め、「**研究会で全体共有→検討・決定→実行**」を行う

取り組み項目	担当企業
<b>パレット納品の拡大</b>	マルエツ、ライフ、原信・ナルス
<b>共同配送、空きトラックの有効活用</b>	カスミ、西友、ベイシア、ヤオコー
<b>生鮮物流における物流課題の解決</b>	サミット、東急ストア、イトーヨーカ堂
<b>チルド物流における物流課題の解決</b>	いなげや、エコスグループ、京成ストア サミット、ウオロク、とりせん

## ■ 関西SM物流研究会の活動状況

発足目的	活動状況
<b>関西エリアの 物流情報を共有</b>	<p><b>センター構造・運用、マテハン仕器などの確認を行い、意見交換を実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフ 平林総合物流センターの見学、意見交換(2025年2月20日 第1回関西SM物流研究会)</li> <li>・万代堺物流センターの見学、意見交換(2025年4月18日 第2回関西SM物流研究会)</li> <li>・オークワ泉佐野流通センターの見学、意見交換(2025年7月18日 第4回関西SM物流研究会)</li> <li>・マルアイロジスティクスセンターの見学、意見交換(2025年10月17日 第5回関西SM物流研究会)</li> <li>・平和堂久御山流通センターの見学、意見交換(2026年2月27日 第7回関西SM物流研究会)</li> </ul>
<b>関西エリアの 物流効率化</b>	<p><b>「荷役作業等時間の短縮」が課題との共通認識(その他課題も議論中)</b></p> <p>各社に取り組み優先事項のアンケートを行い、議論を重ねる。 課題解決に向けて、物流事業者、即席麺メーカーとの意見交換を行った。</p>
<b>関西エリアに 特化した新規 参加企業の勧誘</b>	<p><b>新規参加希望の企業に対して、研究会の活動内容、新規参加条件の説明を行った</b></p> <p>2025年9月4日に開催した「フードストアソリューションズフェア」(@インテックス大阪)では、財田座長より関西SM物流研究会の活動についての講演を行った。</p>

## ■ 2026年度の取り組み方針

1. 荷待ち・荷役作業等時間の短縮ならびに  
「改正物流効率化法」の施行に合わせた対応
2. 首都圏SM物流研究会  
～4つの分科会活動の推進～
3. 関西SM物流研究会  
～関西エリアの物流課題の研究と課題解決～

## ■ 2026年度の取り組み方針(分科会)

分科会	2025年度の取り組み・成果	2026年度の取り組み方針
パレット納品の拡大	菓子メーカー、即席麺メーカーを小売センターに招いて、バラ納品の実態を共有した。また、パレット化に向けての意見交換も行い、一部メーカーからはパレット化に必要な発注数量の提示があった。卸・小売で発注数量を調整し、一部メーカーとのパレット納品を実現した。	<p>①パレット納品拡大に向けた課題についてメーカー・卸・小売センターで改善策を協議する場を設ける。</p> <p>②先端技術活用も含めた対応策を検討し、定量目標(荷待ち・荷役2時間以内)の達成に向けて取り組む。</p>
共同配送・空きトラックの有効活用	加工肉メーカーならびに加工肉メーカーの配送事業者と会合を重ね、各小売の配送ルート、積載率を可視化して、加工肉メーカーの配送トラックの空き空間を有効活用した。結果、加工肉メーカーの配送トラック台数を削減(約1,800台/年間)、同様に農産物の配送ルート、積載率も可視化して、積載率の向上(約13%~38%上昇)を実現した。	<p>①共同配送ネットワーク構築を目的とした、既存インフラの空き空間(トラック/物流センター)活用の推進。</p> <p>②共同配送ネットワークに繋がる運送事業者同士の連携体制構築のサポート。</p> <p>③共同配送ネットワークをサポートする情報システムの検討。</p>

## ■ 2026年度の取り組み方針(分科会・関西SM物流研究会)

分科会 関西SM物流研究会	2025年度の取り組み・成果	2026年度の取り組み方針
生鮮物流における 物流課題の解決	サミット、東急ストアにおいて青果リードタイム延長(LT2化)を実施した結果、鮮度向上、店舗ロス削減を実現した。イトーヨーカ堂も青果LT2化を行い、分科会の担当企業3社の青果LT2化を達成した。	<p>①青果物流の効率化を目的とした基準策定。 (リードタイム延長)</p> <p>②水産の物流課題解決に向けた取り組みの着手。</p>
チルド物流における 物流課題の解決	「チルド物流研究会」(チルド食品メーカー10社)と物流の適正化・効率化に向けた「チルド食品業界製配販行動指針」(チルド物流のガイドライン)を作成し、次年度から取り組むことを宣言した。	<p>重要課題については分科会制度を採用して取り組む。</p> <p>①「荷役作業削減に向けた付帯作業定義」の分科会。</p> <p>②「積載率改善に向けた納品条件の見直し」の分科会。</p> <p>※3ヵ月毎に「全体会」を開催し、各分科会の進捗報告、その他の課題について協議する。</p>
関西SM物流研究会	設立目的の1つである、各社のセンター見学を実施した(センター構造・運用、マテハン什器などの確認を行い、意見交換を実施)。また、関西の物流課題を洗い出し、次年度の取り組み項目を定めた。	<p>①パレタイズ納品の拡大:滞在2時間超の短縮。</p> <p>②共同配送:空きトラックの有効活用。</p> <p>③ASNの活用:検品レスの研究・取り組み推進。</p>

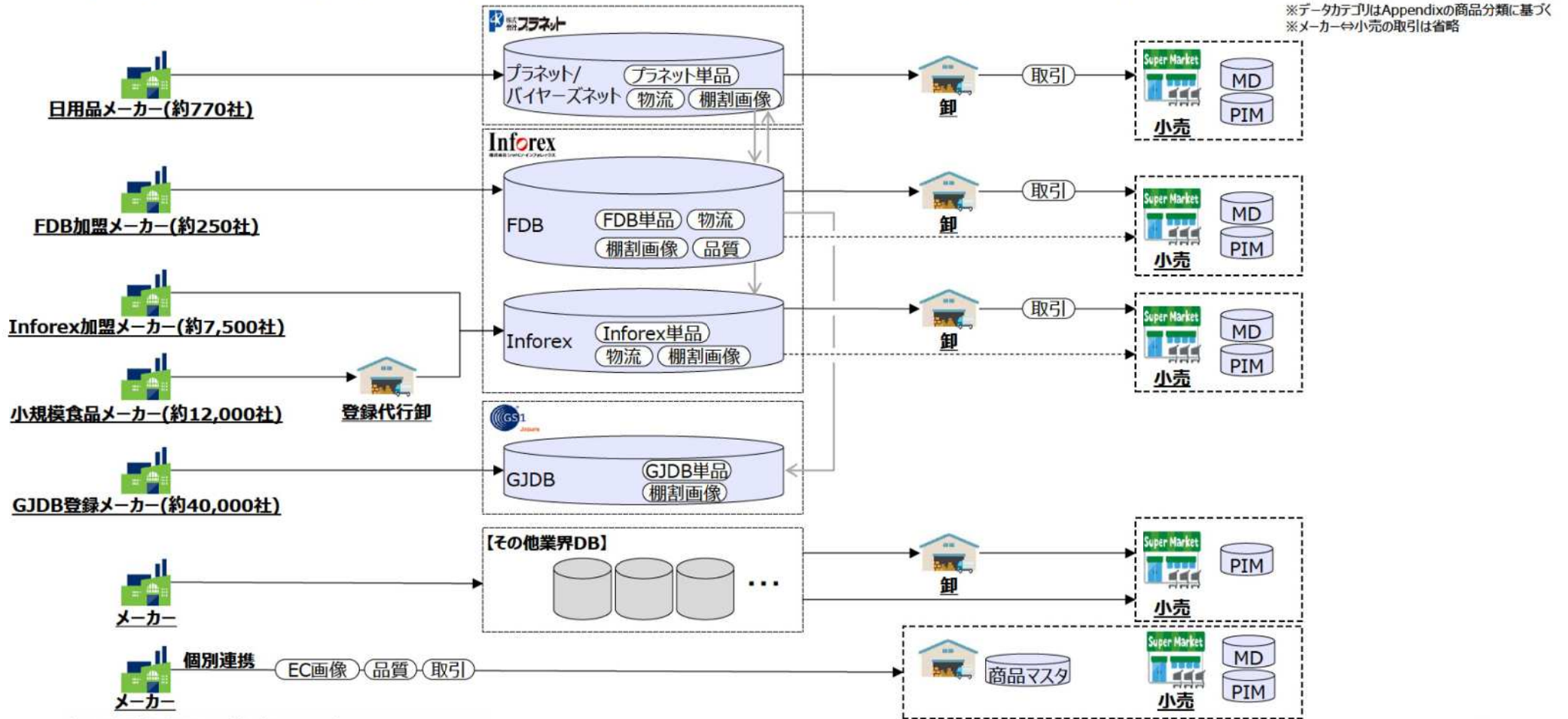
# 商品情報連携に関する これまでの議論と今後の進め方

経済産業省

商務・サービスグループ 流通政策課

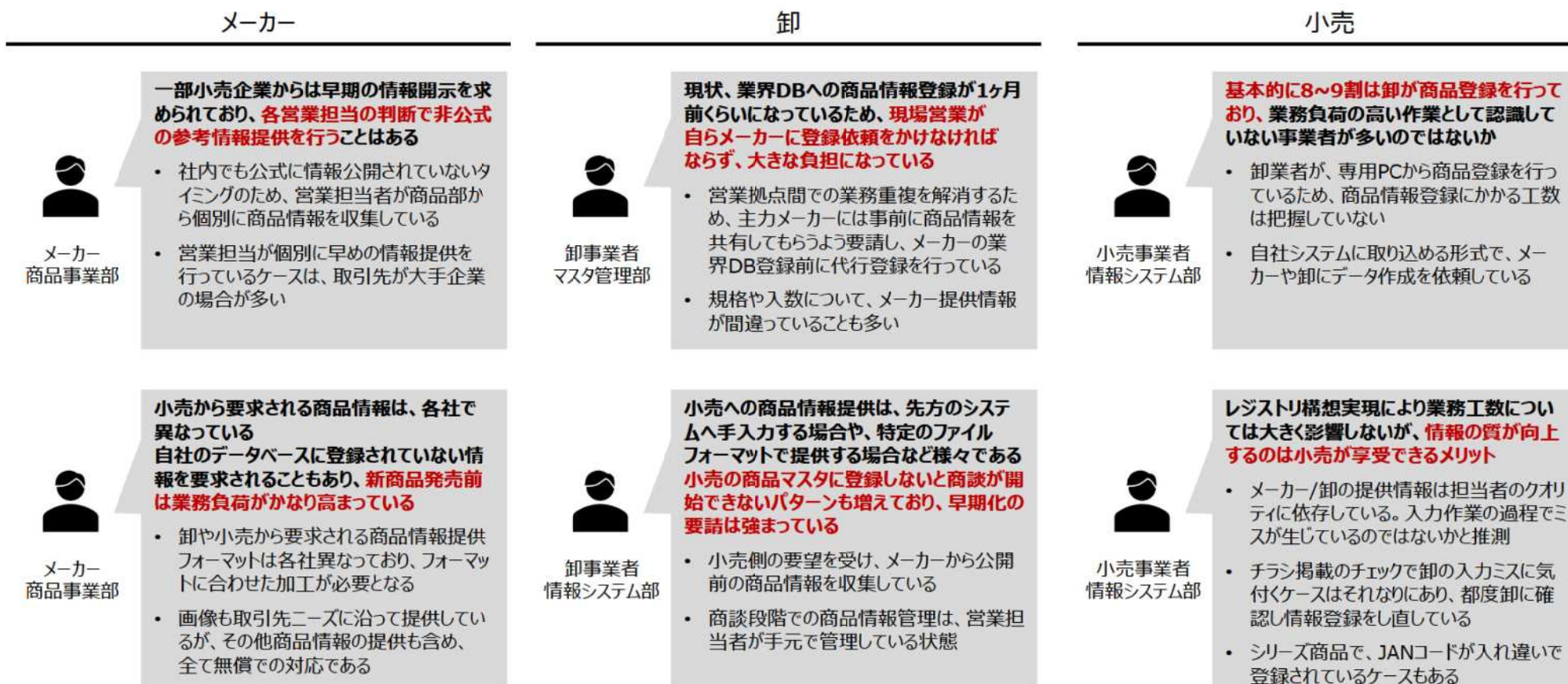
2-2-1. 商品情報授受全体像

プラネットやFDB、Inforexといった業界データベースに商品情報が集約されているが、小売業者への最終的な商品情報提供は、各社個別のやり取りになっており、製・配・販の各プレイヤーにとって業務負荷が高い状態となっている。



## 2-2-2. ヒアリング内容抜粋

製・配・販の各プレイヤーにおいて、商品情報授受における業務負荷は認識されているが、相対する取引先との関係性や業界全体の商慣習により、現行踏襲が続いている。



2-2-1. 製・配・販事業者メリット：業務効率化関連工数試算

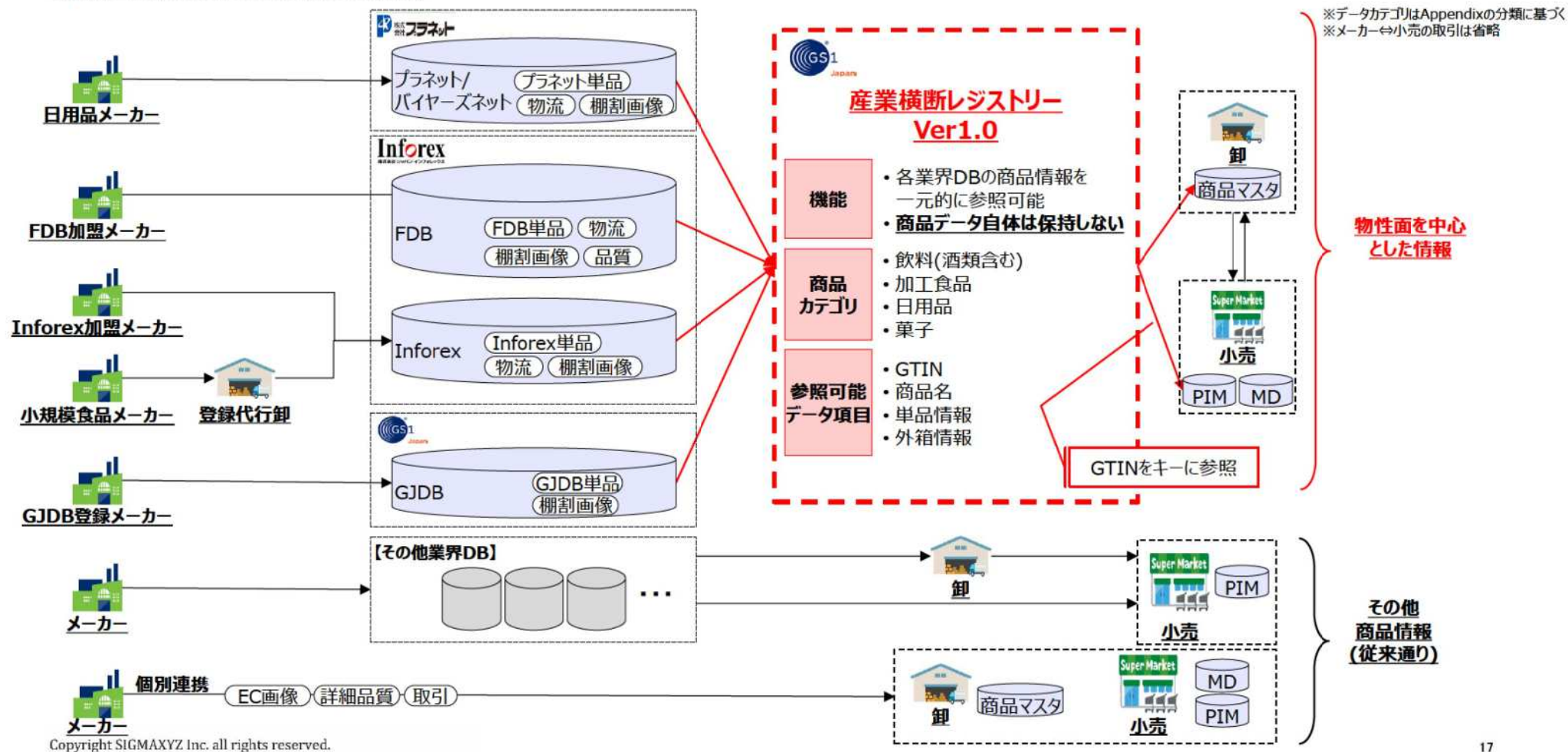
品質・画像情報への取り扱い項目拡大・商談支援システムとの連携を考慮した場合、本構想を通じて、約82.1万人月の関連工数に対する業務効率化が見込める。

凡例  
 黒：第1回試算対象  
 オレンジ：新規試算対象

		商談	商品情報連携	受発注・物流管理	販売準備
効率化 関連工数 概算	新規概算	約30.2万人月	約17.7万人月	約8.1万人月	約26.1万人月
	第1回検討会 提示	約14.3万人月	約12.1万人月	約3.7万人月	対象外
対象業務例	メーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商談                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基本情報伝達</li> <li>✓ 取引情報伝達</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 画像/品質情報伝達</li> </ul>		
	卸	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商談                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基本情報伝達/取得・確認</li> <li>✓ 取引情報伝達/取得・確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基本情報確認 (業界DB)</li> <li>■ 基本情報登録 (代行)</li> <li>■ 取引情報登録 (代行)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受発注                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コード読み替え</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 画像/品質情報登録 (代行)</li> </ul>
	小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商談                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基本情報取得・確認</li> <li>✓ 取引情報取得・確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基本情報登録</li> <li>■ 取引情報登録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 棚割登録                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 商品サイズ情報取得・確認</li> <li>✓ 商品画像 (棚割)取得</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 画像/品質情報登録</li> <li>■ 店舗販促準備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 画像制作</li> </ul> </li> <li>■ EC掲載準備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 画像制作</li> <li>✓ EC掲載用情報入力</li> </ul> </li> </ul>

3-1. 解決の方向性：商品情報授受概要図 (Ver. 1/26年4月時点)

物性面を中心とした商品情報項目は、各業界DBの情報を産業横断レジストリを通じて、品質情報や画像情報（EC画像等）は現行通りの方法で受け渡しを行う。



# 商品情報連携標準に向けた検討 (2024年度)

## 現状の課題

- メーカー・卸・小売それぞれによる、各社都合での管理が常態化 ⇒ **デジタル化の取組を阻害**
- 商品の情報を一意に識別できず、確認・修正等の現場コストが肥大化 ⇒ **人手不足に直面**

## 実態調査 (2024年7月～2025年1月) の結果

- 商品情報授受には**年間30万人月** (棚割・EC掲載等の実務まで加味すれば**年間82万人月**) の工数を要している。
- 米欧等でも同様の課題に対し、各企業トップ層の後押しを梃子に商品情報を共有化。各GS1組織を介した各国間での情報連携も進展。

## 流通サプライチェーンを代表する企業・団体による、取組原則への合意 (2025年3月14日)

### コミットメント (宣言)

- ✓ 我が国に流通する商品の情報は、複雑なサプライチェーンを経る中で都度管理されており、一意性が確保できないことによる管理コストが現場の人手不足を増幅させ、デジタル化の取組を阻害。
- ✓ これらの課題を乗り越え、次世代の商品情報授受を実現させるためには、協調領域における製配販の各層・各社の協力が不可欠。
- ✓ 消費財サプライチェーンの効率化・付加価値向上に向け、その基本となる商品情報について、以下の5原則に沿って共有を進める。

### 5つの原則

- ①消費者に対する商品情報の説明責任
- ②共通情報での協調
- ③ブランドオーナーによるシングルインプット
- ④一括取得・共同利用
- ⑤一意に識別可能な商品の共通IDの利用

- ✓ 商品情報の共有に当たっては、対象となる項目や連携の時期、GTIN設定の在り方などについて、サプライチェーンを構成する企業間での合意形成が必要。2025年度に、実効性の伴うガイドラインを国主導で策定することを求めると共に、その議論に積極的に参加することを約し、商品情報連携の実現を目指す。

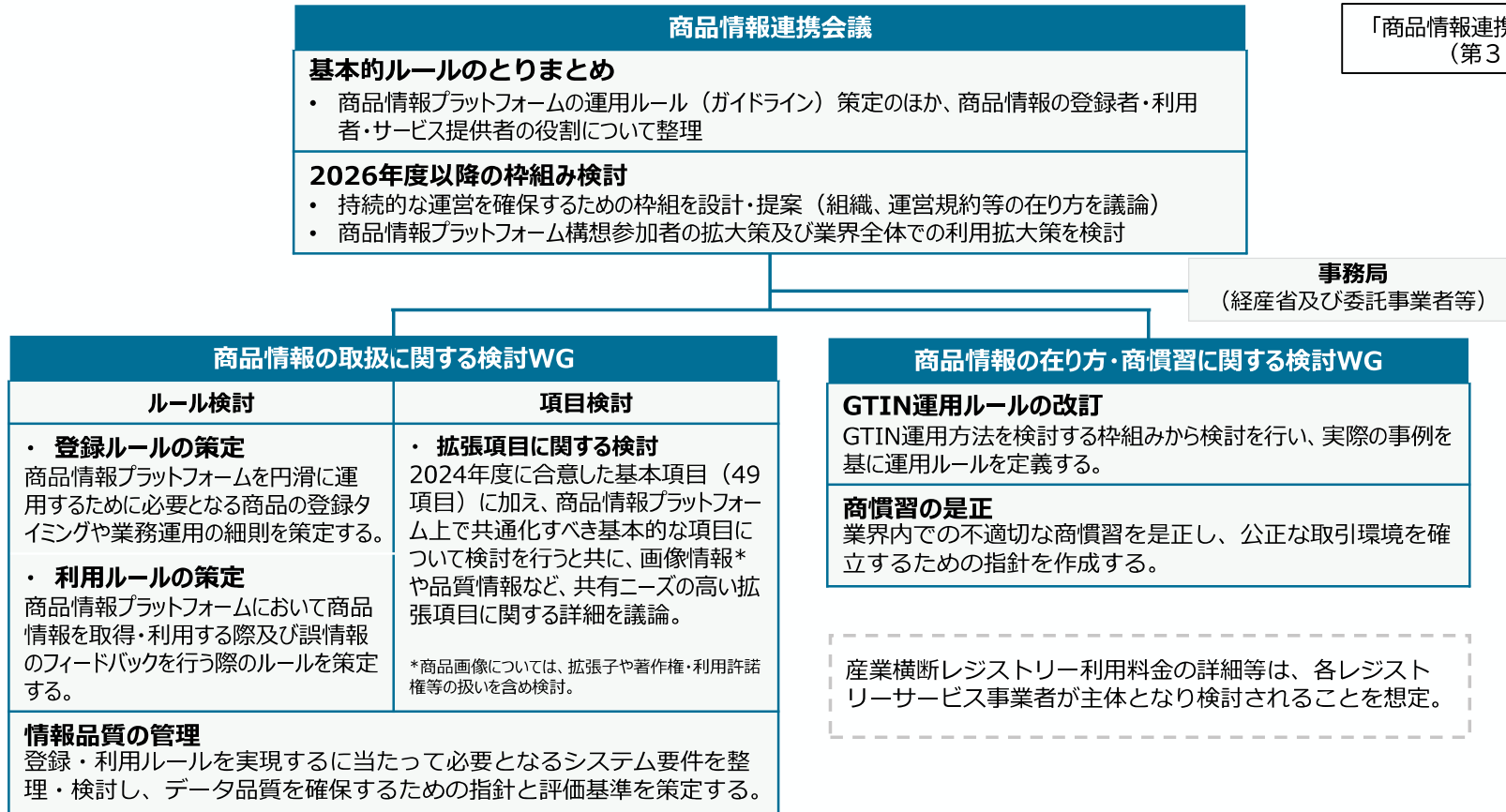
※政府からも、商品情報授受に関するガイドライン策定及び2026年度以降のプラットフォーム稼働に向けた議論の主導等についてコミットメントを发出。

## 目指すべき世界 (ビジョン)

- サプライチェーン上の各社が、**共通ルールに則り**、ブランドオーナーの入力した商品情報を共有
- 管理業務を省力化し**本業の生産性を向上**、消費者に対する**正確かつ必要な情報の伝達**、DXを通じた**新たなマーケティングへの挑戦を実現**

# 商品情報連携標準に向けた検討（2025年度）

- 2025年5月に、商品情報連携会議を設置（主催：経済産業省）。
- 2つのWGにおける議論を経て、12月にガイドライン素案をとりまとめ、本日最終決定を予定。



# 商品情報の授受に関するガイドラインの策定について

- 消費財サプライチェーンに関わる製配販の事業者の皆様と今年度議論してきた、商品情報の授受を円滑に実施するために遵守すべき一般的な事項について「商品情報の授受に関するガイドライン」として策定する。
- 消費財サプライチェーン全体での商品情報の授受を目指すため、消費財サプライチェーンに関わる製配販の全ての事業者がこのガイドラインの趣旨を尊重し、業務プロセスを段階的に見直す努力を求めていく。
- 製配販の全ての事業者が直ちに全ての内容に対応することは容易ではないが、実務状況を踏まえつつ、段階的にガイドラインに沿った運用の実現が図られるものと想定している。

## 趣旨

- 我が国に流通する商品の情報は、複雑な消費財サプライチェーンを経る中で都度管理されており、一意性が確保できないことによる管理コストが現場の人手不足を増幅させ、デジタル化の取組を阻害しているのが実態である。これらの課題を乗り越え、次世代の商品情報授受を実現させるためには、協調領域における製配販の各層・各社及び商品情報プラットフォーム運営事業者の協力が不可欠である。
- 本ガイドラインは、消費財サプライチェーンに関わる製配販の全ての事業者及び商品情報プラットフォーム運営事業者が、商品情報の授受を円滑に実施するために遵守すべき一般的な事項について策定したものである。
- 商品情報の登録者・利用者、商品情報プラットフォーム運営事業者はそれぞれ、本ガイドラインに掲げる諸事項に取り組むことを通じて、消費財サプライチェーンの効率化・適正化及び生産性向上を図るものとする。
- 一方で、商品情報プラットフォームに携わる事業者が本ガイドラインを遵守することに加えて、消費財サプライチェーンに関わる製配販の全ての事業者がこの趣旨を尊重し、業務プロセスを段階的に見直す努力を求める。
- 本ガイドラインの適切な運用を通じ、製配販の各層・各社が連携して消費財サプライチェーン全体の効率化・適正化及び生産性向上を実現し、日本経済の持続的成長に寄与することを期待する。

# 商品情報の登録タイミング

- 本ガイドラインにおいて、商品情報の登録期限は、商品の発売週の6週間前までとすることを記載。
- 一方、登録期限以前から発生するメーカー（ブランドオーナー）と卸/小売間の商品情報授受についても非効率なやり取りが継続されることは望ましくなく、段階的な商品情報の公開も含めた商品情報プラットフォーム経由での情報授受を推奨していく。

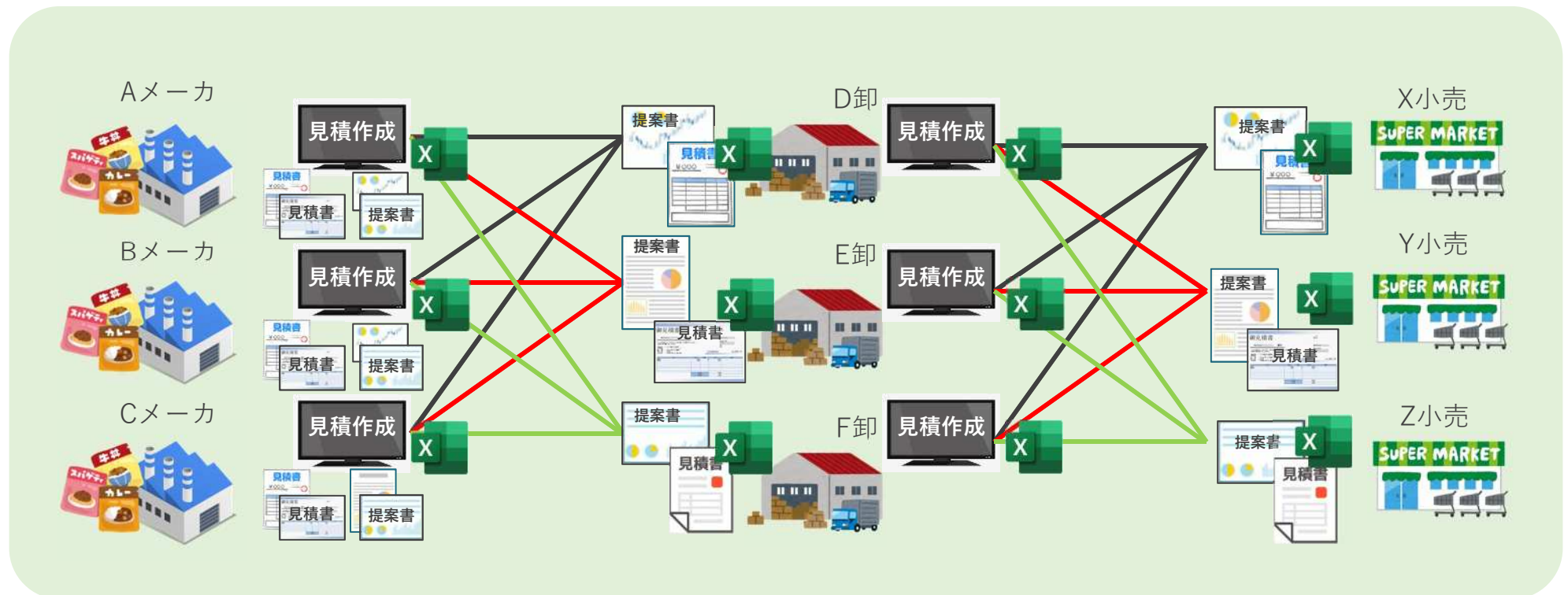
ステークホルダー に求められる対応	メーカー (ブランド オーナー)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 取引先毎の個別の商品情報授受を削減するため、段階的な商品情報の公開も含めた商品情報PF経由での情報公開を検討すること (小売との商談が開始される発売12週前の公開が望ましい)</li></ul>
	卸	<ul style="list-style-type: none"><li>• 一連の商品情報授受を商品情報PFに集約するよう、メーカー（ブランドオーナー)/小売に働きかけること</li><li>• 統一ルールである登録タイミングを理解し、業務プロセス設計を行うこと</li></ul>
	小売	<ul style="list-style-type: none"><li>• メーカー（ブランドオーナー）/卸の業務負荷を高めるような商品情報の早期共有依頼は差し控えるように努めること</li><li>• 統一ルールである登録タイミングを理解し、業務プロセス設計を行うこと</li></ul>
	PF事業者	<ul style="list-style-type: none"><li>• メーカー（ブランドオーナー）が商談段階から商品情報を登録できる環境を整え、事業者間の商品情報授受が、商品情報PF上で円滑に行われる環境を整えること</li></ul>

# 現在の商談業務と関連データ授受のイメージ

見積書や商品情報の授受は小売業によってフォーマットがバラバラで、かつExcelとメールでの作業が長年変化なく現在も行われています。

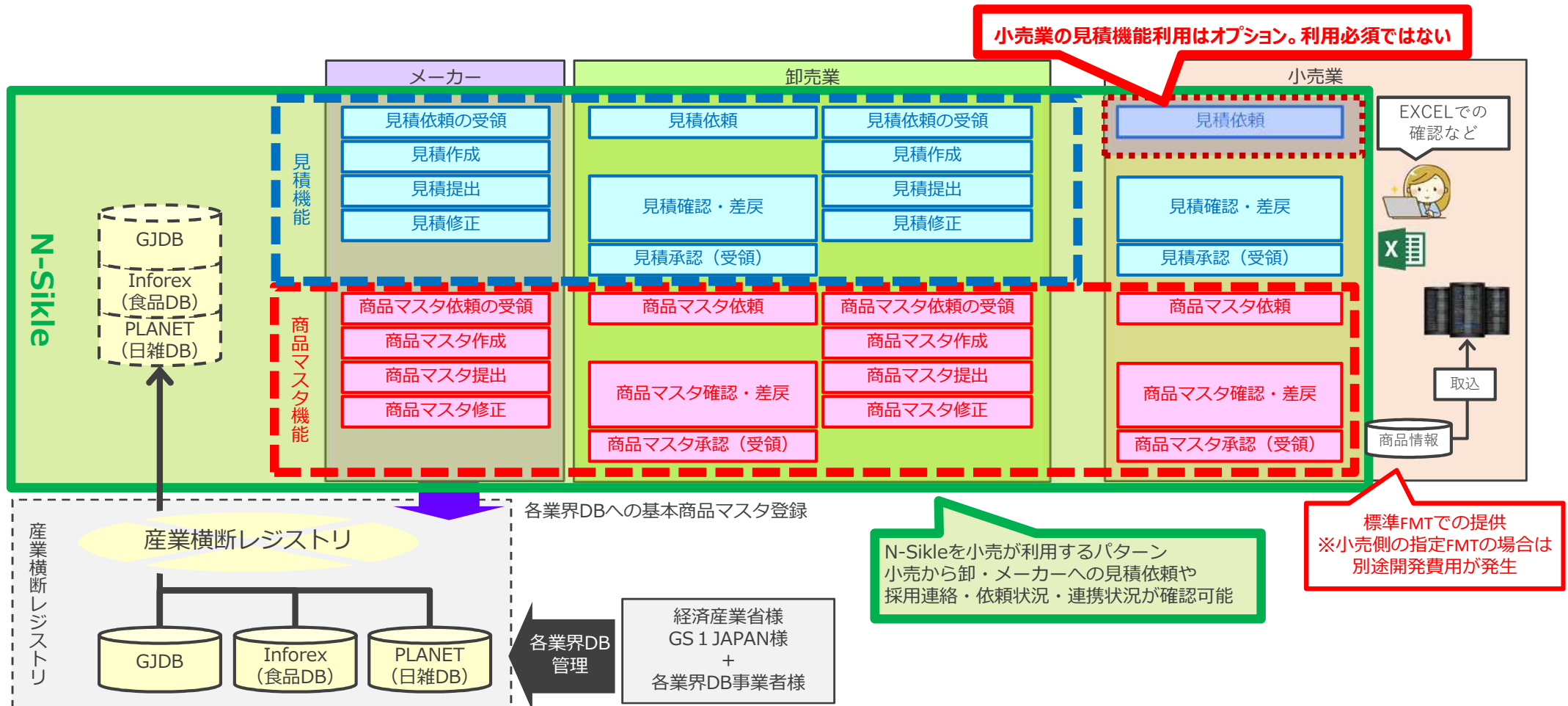
小売業が求める情報は、品名や取引条件だけでなく画像・サイズ・重量さらには品質管理情報など多岐にわたり、また登録スピードも要求されます。

情報伝達方法のデジタル化と、個別対応削減の為の業務方法及びフォーマットの標準化の実現が望まれ、さらにWeb商談化や電子帳簿保存法などへの対応も必要となっています。



# 製配販での「N-Sikle」と「産業横断レジストリ」連携イメージ

- ・「産業横断レジストリ」は各業界DBの商品情報管理を行い、「N-Sikle」と連携し、正確な商品情報の供給を行う。
- ・「産業横断レジストリ」の商品情報は商品確定情報を連携する商品マスタ機能だけでなく、既存商品に関する価格改定時の見積機能でも利用する。
- ・利用ユーザーは見積機能／商品マスタ機能ともに「N-Sikle」のブラウザ機能を使用してサービス利用する。
- ・小売業もN-Sikleを利用し見積依頼・採用連絡をN-Sikleにて行う。見積・商品情報はN-Sikleから取得する。





## 通常総会 記念パネルディスカッション

# サプライチェーン全体最適による流通生産性改革 ～人手不足・コスト増時代の持続的成長に向けて～

人口減少・人手不足・各種コストアップが続き、一方、安定的な利益と持続的な賃上げ等の投資が求められる中、各企業単位でのコスト削減や生産性の向上には限界が見え始めています。かねてより日本の小売業は生産性の低さが指摘されており、個社や業界を超えたサプライチェーン全体での生産性向上が必要となっています。

このパネルディスカッションでは、製・配・販、行政の各トップからその必要性や効果・課題について、語っていただきます。

### パネリスト



株式会社Mizkan  
代表取締役 副会長  
**吉永 智征 氏**



キュービー株式会社  
代表取締役 社長執行役員  
**高宮 満 氏**



国分グループ本社株式会社  
代表取締役 社長  
**國分 晃 氏**



株式会社日本アクセス  
代表取締役 社長  
**服部 真也 氏**



株式会社ライフコーポレーション  
代表取締役 社長執行役員  
**岩崎 高治 氏**



サミット株式会社  
代表取締役 社長  
**服部 哲也 氏**



経済産業省  
商務・サービス審議官  
**井上 博雄 氏**

2026年6月26日（金） 14：30～16：00  
ザ・プリンスパークタワー東京 地下2階「ボールルームA～C」  
〒105-8563 東京都港区芝公園4-8-1

## 2026年度 当協会の事業方針

当協会の設立目的である「会員相互の成長発展を通じてスーパーマーケットの健全な発展及び食料品流通機構の近代化・合理化を促進し、ライフラインとしての食品の安定供給を図るとともに、より豊かな国民生活の実現に寄与する」ことを忘れず、またこの目的を果たすために「政治・行政など関係方面へ広く政策提言を行う他、わが国におけるスーパーマーケット業界の位置づけを確かなものにするために、積極的な情宣活動、調査活動、社会貢献活動」を行います。

### 1. 生産性向上

#### (1) 製・配・販一体での生産性向上

「商品情報連携標準」、「SM物流研究会」の活動推進

#### (2) 先端デジタル技術の活用

デジタル・AI、ロボット活用、RFID、レジレス、マイナンバー年齢確認

### 2. 人材活躍推進

#### (1) 税と社会保障制度の一体改革

税制改正に伴う「年収の壁」に対する意識変化調査とそれを踏まえた対応検討

#### (2) 外国人材が更に活躍できる環境づくり

外国人材の評価、登用、教育制度などの研究

### 3. 直近の業界重要課題

サイバーセキュリティ、防犯対策

## パネルディスカッション テーマ（予定）

### 1. 個社最適の限界とサプライチェーン全体最適の必要性

### 2. 「物流2024年問題」での成功事例

### 3. 「商品情報の共有化」の効果と課題

### 4. 利害関係を越えた

製・配・販連携の取組みのために必要なこと

## [北海道支部]

2026年度北海道支部勉強会が、北海道支部ワーキンググループと賛助会員の共催にて行われた。

### 【2026年度北海道支部勉強会 次第】

日 時 2026年5月27日（水） 15:00～18:00

場 所 京王プラザホテル札幌 B1F プラザホール（勉強会）

挨拶 （一社）日本加工食品卸協会 北海道支部 支部長  
日本アクセス北海道株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員 齋藤 伸一

勉強会 講 師：芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科 教授  
原田 曜平 様

演 題：「Z世代はこう動かせ 超人手不足時代の若者の育成、採用について」

質 疑

懇親会



挨拶する齋藤支部長



講演する原田教授